

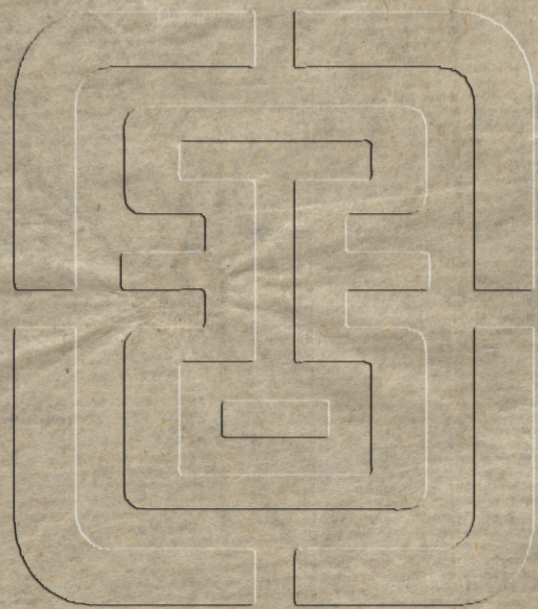


制度通

十二十三



制度通卷十二



賜雪軒  
小柴氏

伊藤長胤  
輯

▲律令格式ノ事

○古ヘヨリ天下國家ヲ治ルニ法アラズト云コトナレ書ノ洪範  
九疇ハ夏商ノ世天下ヲ治ムルニ法ヲアラハセリ箕子ニシテ  
武王ヘ傳ヘテ周官三百六十八周ノ禮典ヲ記セリソノ後  
世々ノ律令格式モ時ニ隨テ増減アリ夫詳ニ當時ノ法度ヲ  
述タルモノナリ

○律ト云ハ本戰國ノ時魏ノ李悝ヨリオス其時六法經トシテ  
 夕、六篇アリ商鞅之ヲ改シテ律トスソノ後段々損益沿革  
 アリ唐六典ノ注ニ李悝集諸國刑書造法經六篇一  
 盜法ニ賊法三囚法四捕法五雜法六具法商鞅  
 傳之改法為律○呂氏曰具律令之名例律也ト玉  
 海ニコレヲヒク

○漢ノ律傳ハラズ諸書殘リテアル玉海ニ之ヲ引ク

- 上計律
- 大樂律
- 尉律
- 田律
- 酌金律
- 賊律
- 收幣律
- 相坐律
- 挾書律
- 誹謗律

○律ノ外ニ又令ト云書アリ漢已來南北朝ノ比ヨリ世々ニ  
 ノ名アリ北齊ノ河清新令ナドノ書ミルベシ晉刑法志ニ云  
 漢時決事集為令甲以下三百餘篇トアリ漢ノ時  
 令傳ハラズ篇目諸書ノ内ニ偶殘リテアリ玉海ニ此ヲ纂

- 令甲
- 令丙
- 令シ
- 乙令
- 金布令
- 功令
- 秩祿令
- 宮衛令
- 品令
- 祀令
- 祠令
- 齋令
- 公令
- 功令
- 廷尉挈令
- 光祿挈令
- 樂浪挈令
- 廷尉板令
- 田令
- 水令

○文獻通考云律文十二卷音義一卷陳氏曰自魏李  
 悞漢蕭何以來更三國六朝隋唐因革損益備矣  
 本朝天聖中孫奭等撰音義ト云ク是ハ直ニ唐律ノ事  
 見ヘタリ唐ノ時漢以來ノ法ヲ損益シテ唐ノ律ヲ定メ  
 宋朝ニモ是ヲ用ユルニヨリテ故ニ律文ト舉ケタルト見ヘタリ  
 即今ノ唐律疏議ナリ然レトモ疏議褚遂良等カ作ナレトモ  
 ツノ事通考ニ見ルガオモフニ當時馬氏陳氏ナド夕、律ノ本  
 小注バカリノ本ヲミテ疏議ヲ見ガルトミヘタリ

○唐律十二卷目錄 凡五百條 計三十卷

一名例 計六卷 二衛禁 計二卷

三職制 計三卷 四戶婚 計三卷

五廩庫 計一卷 六擅興 計一卷

七賊盜 計四卷 八鬪訟 計四卷

九詐偽 計一卷 十雜律 計二卷

十一捕亡 計一卷 十二斷獄 計二卷

右唐律自録カクノヤトシ宋ニ至リテモソノ條目カハルコトニ

擅興ト云ハ軍兵ヲウゴクノ法ナリ律ノ第一條ニ云擅興兵

十人以上徒一年トアリ是ニテソノ義ニハ漢ノ時蕭何是

ヲ興律ト云曹魏ノ時ニ擅事ヲ附シ入テ名ツケテ擅興律ト云北齊ノ時ニ興擅律ト云隋已來改メテ又擅興律ト云ナリ明ノ律ニコノ篇目見ヘズ軍政律ト云即コノコトナリ

○唐ノ玄宗開元中ニ宋璟等刪定シテ令マ三十卷千五百四十六條アリ世ニ所謂唐令是ナリ曾南典云コレ序

○唐令三十卷目錄見六典ノ凡令二十有七分爲三十卷而大凡一千五百

四十一  
六島

- 一官品方爲上下 二三師三公臺省職負 三寺
- 監職負 四衛府職負 五東宮王府職負

六州縣鎮戍岳瀆開津職負 七内外命婦職

負 八祠 九戸 十選舉 十一考課 十

二宮衛 十三軍防 十四衣服 十五儀制

十六鹵簿方爲上下 十七公式方爲上下 十八田

十九賦役 二十倉庫 二十一廐牧 二十

二開市 二十三醫疾 二十四獄官 二十

五宮繕 二十六喪葬 二十七雜令

○又式二十卷アリ格七百條アリ是又合セテ律令格式

云テ唐ノ太宗ノ時ニ是ヲ定メラソノ後武后ノ時ニ垂拱格

リ玄宗ノ時ニ開元格アリ文宗ノ時ニ大和格アリ何レモソノ時ノ年號ニヨリテ名ツケタルモノナリ

○大學衍義補云唐之刑書有四曰律令格式令者尊卑貴賤之等數國家之制度也格者百官有司之所常行之事也式者其所常守之法也凡邦國之政必從事於此三者其有所違及人之為惡而入于罪戾者一斷以律律之為書因隋之舊為十有二篇

○又曰玄齡等典法司增損隋律降大辟為流者九十二流為徒者七十一以為律定令一千五百四十六條以為令又刪武德以來勅三千餘條為七百條以為格又取尚書省列曹及諸寺監十六衛計帳以為式

○律令格式ト同ニヤウナルコトヲ四ツタテラレタルワケハ令トハ天下へ一通リト掟ニテ萬事ノ止ニ就テカクノゴトクセヨカリノトノスルコトナカレト辨令ヲ定メオキタルモノナリ律トハ天下ノ人罪アルトキカクノゴトキ罪ハ流罪ニ處シカクノゴトキトキハ徒罪ニスルト云フ差シアラハシクモナリ杜預律序曰律以正

罪名令以存事制ト杜氏通典云違令有罪則入律也ト是ナリ格ト云代々天子ノ命令或ハ律令ト少カハリタルコトモアリ又律令ヲ丁寧ニセラルコトモアリテ臨時御コレナリ大明律ノ内ニ條例トアル類ナリ 本朝ノ三代格等ノ體ヲミルニ中國ノ格モノノ通りナルニ式ハ百官ノ官府ニテオコナフ次第作法官ニヨリテ類シタルモノナリ今ノ延喜式ノ體即是ナリ

**本朝之制有律令格式**

本朝法令ノ書モハ唐ノ刑書ノ目ニヨリテ律令格式ノ四

科アリソノワケ唐ノ制ト同シ

○律十卷 贈太政大臣藤原不比等奉 勅撰

名例第一 衛禁第二 職制第三

戸婚第四 厩庫第五 擅興第六

賊盜第七 鬪訟第八 詐偽第九

雜律第十 捕亡第十一 斷獄第十二

○令十卷 贈太政大臣藤原不比等奉 勅撰

官位 職負 後宮職負 東宮職負 家令

職負 神祇 僧尼 戸 田 賦役 學

選叙 繼嗣 考課 祿 官衛 軍防 儀

制 衣服 營繕 公式 倉庫 廐牧 醫

疾 假寧 喪葬 開市 捕亡 獄 雜

○三代格

弘仁格十卷 大納言藤原冬嗣等奉勅撰

貞觀格十二卷 大納言藤原氏宗等奉勅撰

延喜格十二卷 左大臣藤原忠平等奉勅撰

卷第一 神祇中務 卷第二 式部上 卷第三 式部下

卷第四 治部上 卷第五 治部下 卷第六 民部上

卷第七 民部下 卷第八 兵部 卷第九 刑部 大藏 京内 官 彈正

卷第十 雜格 臨時格卷上 臨時格卷下

右三代格ノ部類シテ類聚三代格ト云又法曹至

要鈔三卷長春作ト云律令格式ノ要領ヲ舉ク玉制

ノ大略ヲ三ルヘシ

○三代式

弘仁式三十卷 大納言藤原冬嗣等奉勅撰

貞觀式二十卷 左大臣藤原氏宗等奉勅撰

延喜式五十卷 左大臣藤原忠平等奉勅撰



卷第一	神祇四	伊五	神祇五	六	神祇六	七	神祇七	八	神祇八	九	神祇九	十	神祇十	十一	神祇十一	十二	神祇十二	十三	神祇十三	十四	神祇十四	十五	神祇十五	十六	神祇十六	十七	神祇十七	十八	神祇十八	十九	神祇十九	二十	神祇二十	二十一	神祇二十一	二十二	神祇二十二	二十三	神祇二十三	二十四	神祇二十四	二十五	神祇二十五	二十六	神祇二十六	二十七	神祇二十七	二十八	神祇二十八	二十九	神祇二十九	三十	神祇三十	三十一	神祇三十一	三十二	神祇三十二	三十三	神祇三十三	三十四	神祇三十四	三十五	神祇三十五	三十六	神祇三十六	三十七	神祇三十七	三十八	神祇三十八	三十九	神祇三十九	四十	神祇四十	四十一	神祇四十一	四十二	神祇四十二	四十三	神祇四十三	四十四	神祇四十四	四十五	神祇四十五	四十六	神祇四十六	四十七	神祇四十七	四十八	神祇四十八	四十九	神祇四十九	五十	神祇五十
-----	-----	----	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	---	-----	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	----	------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	-----	-------	----	------

○五代ノ時梁ノ太祖開平四年ニ新ニ律令格式ヲ冊定ス

レ大梁新定格式律令ト云テ百三卷アリ周ノ世宗顯德四年ニ大周刑統二十一卷ヲ修セテ律疏令式ト同シク天下

ニ通行ス宋ノ太祖建隆四年ニ實儀刑統三十卷ヲ重定ス令式宣勅等ヲ增刪シテ新編勅ト多ク刑統ト並ニ

掃部	卅九	正親	四十	造酒	采水	四十一	正彈	四十二
左右京	四十三	春	四十四	勘	解	四十五	左右	四十六
東西市	四十七	兵衛	四十八	左右	四十九	馬	左右	五十
九車	五十	雜式	○延長	五年	二月	二十六日		

刊行セラレ其後太宗仁宗ノ世時々増損アリ

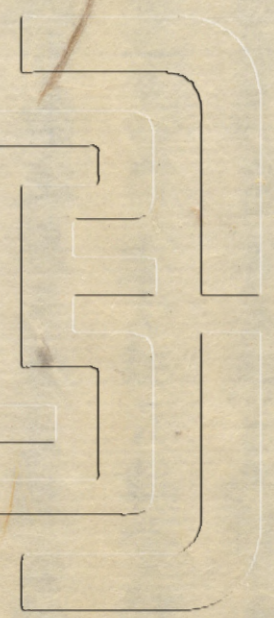
○洪容齋隨筆云法令之書其別有四勅令格式是也神宗聖訓曰禁於未然之謂勅禁於已然之謂令設於此以待彼之至謂之格設於此使彼效之謂之式勅令格式ノワケ是ニテノ差別シレヘシカドモニギラハレキヤウニキユニホカ細ハ上ニ禁文獻通考等ノ説ニテアキナリ

○神宗ノ時律バカリニテハ盡キケルヨリテ律ノ載セザル事ヲ勅ヲ以テサスソノ目ヲアラタメテ勅令格式ト云勅ハ名例ヨリ以下斷獄ニテ十二門アリ令ハ品官ヨリ斷獄ニテ二十五門アリ

リ命官ノ等級高下アルモノヲ格トス表奏帳籍等ノ類體制模楷アルモノヲ式ト云其後高宗ノ紹興中ニ勅十三卷令五十卷格三十卷式二十卷アリ又寧宗慶元中ニモ又勅十二卷令五十卷格三十卷式二十卷ヲ修セラレ然レトモ律ガソノ用ヒラレニヨリテ大學衍義補ニ云律恒存乎勅之外又丘文莊云所謂勅者兼唐之律也ト是ナリシカバ宋ノ時ニ律令格式ニ勅ヲ合セテ五ツアリ故ニ是ヲ居家必用ニ五科ト云

宋 勅

律令五科圖  
律式格令



○明太祖時洪武元年大明令書罕五條ヲ作リテ天下ニ頒チ  
行フ六年ニ及テ刑部尚書劉惟謙等ニ命シテ律文ヲ作ラシメ  
大明律是ナリハシニ名例律アリ次ニ六部ニ分テ凡三十卷四百  
六十條アリコト外ニ洪武禮制諸司職掌並ニ大誥三篇大誥  
武臣等ノ書アリテ唐宋ノ律令格式並ニ編輯等皆ノ中ニ入リ

○大明律目錄九百六十一條計三十卷

名例律 四十一條

吏律 職制 十五條

戶律 戶役 十五條

婚姻 十條

課程 十九條

市廛 五條

禮律 祭祀 六條

兵律 宮衛 十九條

公式 十八條

田宅 十一條

倉庫 二十四條

錢債 三條

儀制 二十條

軍政 二十條

軍政 二十條

刑律

開津 條七  
廐牧 條十一

郵驛 條十八

賊盜 條二十八  
人命 條二十

鬪毆 條二十二  
罵詈 條八

訴訟 條十二  
受贓 條十

詐偽 條十二  
犯姦 條十

雜犯 條十一  
捕亡 條八

斷獄 條二十九

營造 條九  
河防 條四

兵制並ニ 本朝軍團ノ事

○兵制ノコト古ハ八軍、兵ヲ百姓ノ内ニ寓シテ民ノ外ニワケテ  
武士ヲ養フコトナシコレヲ農兵ト云フノ時ノ法并田ヨリ  
出シテ并田十六合セタル所ヲ丘ト云テ戎馬一匹ヲ出ス四丘  
為甸、六十四井ノ地ヲ甸ト名ツケテ馬四疋、兵車一乘ヲ出ス、  
乗コトニ甲士三人、步卒七十二人、干戈二テ備ハシテ乘馬法  
ト云何レモ人数五人ヨリ積ミ上ケル物ニテ五人為伍、十人為  
什、二十五人ヲ一隊トシ、内一人ヲ隊長トシテ合セテ七十五  
人ナリ又雜役ノモノ二十五人アリトイヘリ總テ兵車一両三百

人ツ、付テ是ヲ積ニ上ゲテ百乘千、乘ノ國ト云ナリ

○又周ノ司馬法ニ五人為伍、二十五人為兩、四兩為卒、々

八百人ナリ五卒為旅、々五百人ナリ五旅為師、々二千五

百人ナリ五師為軍、々一萬二千五百人ナリコレヲ一軍ト

スツノ時天子ハ六軍、マテ七萬五千人ナリ大國ハ三軍中

國ハ二軍小國ハ一軍ト云大國ハ三萬七千五百人中國ハ

二萬五千人ナリ

周	天子	七萬五千人
六軍	大國	三萬七千五百人
三軍	中國	二萬五千人
	小國	一萬二千五百人

制圖

二軍	中國	二萬五千人
一軍	小國	一萬二千五百人

軍法ニ乘ト云ト軍ト云ト人数ノツモリ甚不同ア

リ天子ヲ萬乘トイヘハ人数百萬人ナリ千乘千

萬人百乘ハ一萬人ナリ又軍旅ノ積リニテイヘハ

天子ハ六軍ニテ七萬五千人ナレハ萬乘ノ人数十

分ノ一ニモオヨバシカレトモ三軍六師千乘萬乘ノ

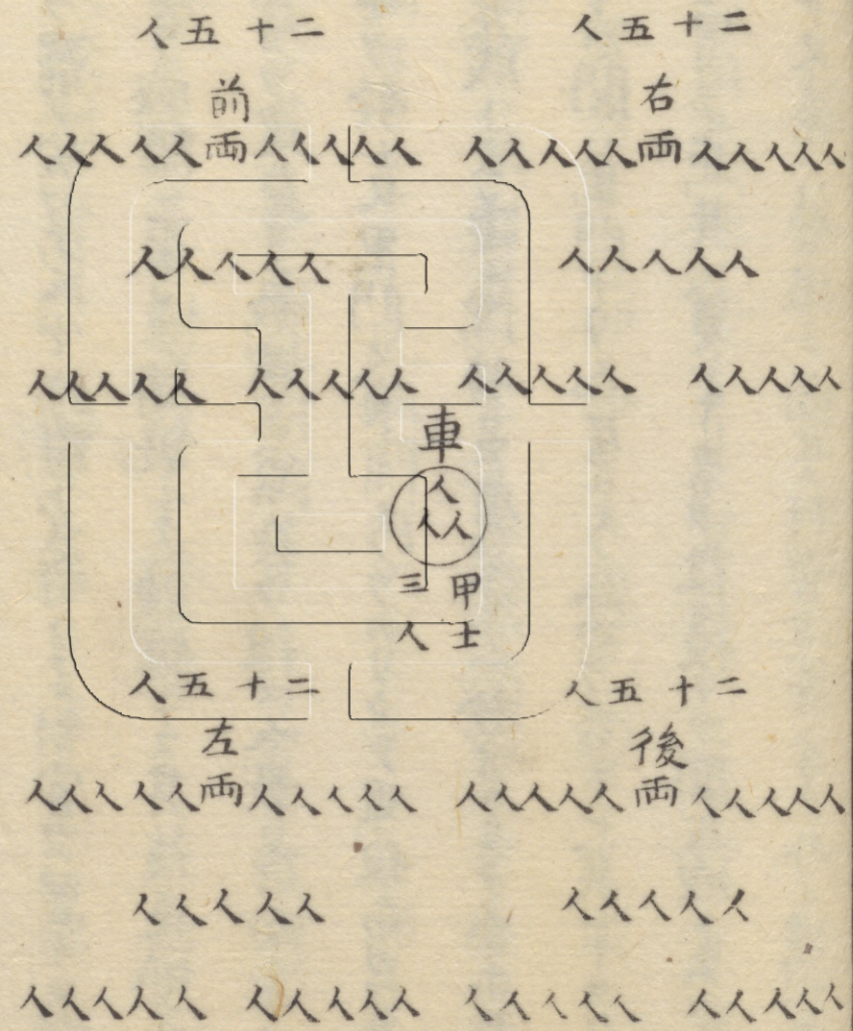
コト論孟左氏等ノ古經ニ多ク見ハルツノカニツノ制ニ

ツナガラアルコトアキラカナリシカレハ千乘萬乘ハ土地

總體ノツモリニテ六軍三軍ハ出陣ノ時ノワリト  
見ヘタリ

○孟子ニ萬乘之國云々舊說相承テ天子ノ事ト注  
アリ然レトモ是ハ當時強大ツ諸侯ヲサシテ萬乘國  
ト云テカナラズ天子ヲ言フニアラズ孟子ニ齊ノ燕ヲ伐  
ヲ稱シテ曰以萬乘之國伐萬乘之國ト又史記魯  
仲連傳云今秦萬乘之國也梁亦萬乘之國也ト云  
ニテミルヘシ向レモ兼并ノ時分直チニ當時ノ事ヲ稱シテ古  
ク成法ヲ言フニアラズ

周禮百人為卒圖



○ソノ後春秋戰國ノ間ノ兵制世々ニ異同アリテソノ事左傳國

策等ニ散見ス委細ヲアグルニオホス秦ノ始皇天下ヲ一統シテ  
 諸侯ヲ罷シカツテ三十六郡トス郡コトニ材官ヲ置キ天下  
 ノ武具ヲ咸陽ニ聚シテ鑄敷シテ鍾鏢トス其後長城ヲ築  
 キ阿房ヲ建ル等ニ數萬ノ軍兵ヲ役ス人数足ラズニテ謫  
 戍ノ卒ヲ發シ又里門ノ貧シキモノヲカリタテ軍役ニカフ是  
 ヲ間左戍ト云遂ニ陳勝吳廣等ノ揆オコリテ秦ホロブ  
 間左トハ間ハ里門ナリ凡居ルモノハ富ヲ右トシ貧シキヲ左ト  
 ス是ニヨリテ市井ノ貧シキ者ヲ役ニ使フラ間左戍ト云

○漢興テ又秦ノ法ニ倣テ國々ニ材官ヲ置クノ外ニ樓船車

騎アリ平地ニハ車騎ヲ用ユ山阻ニハ材官ヲ用ユ水泉ニ  
 樓船ヲ用ユ土地ノ勢ニヨリテ宜ニ隨テ是ヲ設ク是皆外  
 ニ在ク軍兵ナリ京師ノ守リニ南軍北軍ト云武士ニ組  
 アリ南軍ハ衛尉是ヲ主トリ宮城門内ノ兵ヲ掌ル北軍  
 ハ中尉是ヲ主トリ京城門内ノ兵ヲ掌リ京師ヲ巡徼  
 ス武帝ノ世ニ及テ羽林期門等ノ兵ヲ置キ宿衛官トシ  
 テ南軍ニ屬ス又中尉ヲ改メテ執金吾トシテ中壘屯騎  
 等ノ八校尉ヲ置キテ北軍ニ屬ス是ヨリ兵籍紛々南北  
 軍ノ制ヤブルソノ軍士ハ亦郡國ヨリ更番ニ調發ス大抵西

漢ニ通シテ軍兵ノ負數四萬人ニ過キズト見ヘタリ

漢書ニ刑法志アリテ別ニ兵志ナシカニヨリテ漢ノ世ノ兵制タシカニシレガタシ文獻通考ニ易氏章氏ノ說ニヨリテ漢書ノ紀表列傳等ヲ參考シテ圖說ヲアラハスソノ大畧ヲ上ニアグ

○後漢ノ世光武中興ニ及テ少々兵ヲ設ケ京師ニ南北軍ノ制モトゴトシ然レトモ郡國ノ都尉ヲ罷シ都試ノ法ナク車騎材官ヲ罷シテ民伍ニカハスヨリ兵制蕩然トシテ武備才ト只リホニ到リテ義兵四モ起リ郡牧政ヲ爭フテ天下遂ニ三分

○魏ノ制ハ畧後漢ノゴトク南北軍アリ蜀ニ先主ノ時ニ五軍ヲ置ケリ吳ニ六舟師多シ調度亦法ナシ晉ノ時左右軍ニカチテ吳ヲ伐ツ又四部四軍七軍等ノ名アリ又同姓ヲ封シテ大國ニ軍次國ニ軍等ノ制アリ太康元年吳ヲ平ゲテ後コトク州郡ノ兵ヲ罷シラル僕射山濤上書シテ諫一トモ用ヒラズソノ後永寧以後盜賊群起シテ州郡備方コレヲ制スルコトヤタハ天下遂ニ亂ヒ山濤カコトレルレアリトイフ

○南北朝ノ間喪亂ノ中ソノ制詳ニアグルモヨハス北魏ノ孝文帝都ヲ洛陽ニ定メ武勇ノ士十五萬人ヲ選シテ羽林虎賁トシテ



宿衛ニソナフ北齊ノ時軍制ヲ内外ニ分ケ外ヲ歩兵曹トシ  
 内ヲ騎兵曹トシ天下ノ民年二十ニテ兵トナリ六十ニテユルサ  
 コフル古法ヲ追フ周ノ太祖西魏ヲ輔ル時蘇綽カ言ヲ用ヒ姬  
 周ノ法ニチラフテ六軍ヲ置ク人数五萬人ノ内アリ是ヲ百府  
 ニ分チテ一府ニ郎將一人ネラキトル二十四軍ニ属シテ軍開  
 府一人アリソノニリヲ柱國六人大將軍十二人ニテ是ヲ統  
 隋ノ法モ周齊ニヨリテ潤色ス

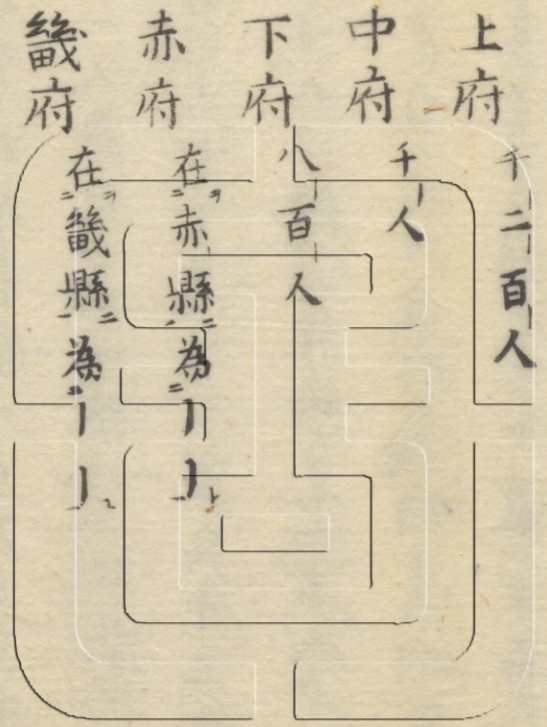
○唐ノ兵制ハ周齊隋ノ法ニヨリテ府兵ト云高祖武徳ノ初  
 年ニ初メテ軍府ヲ置キ開中ヲ析<sup>ヲ</sup>テ十二道トス又改メテ軍

トステ各將軍副將軍一人ツノアリ

○太宗ノ貞觀十年ニ諸府ヲ改メ名ツケテ總テ折衝府  
 ト云ム每府ニ折衝都尉一人左右果毅都尉各一人  
 別將一人長史一人兵曹一人校尉六人ツノアリテ是ヲ  
 掌ル府ニ上中下ヲ分ツテ軍兵千二百人ヲ統ルヲ上  
 府トシ千人ヲ統ルヲ中府トシ八百人ヲ統ルヲ下府トス又  
 都子カクニ在ル府ヲ赤府畿府ト云何レモ衛士三百人ヲ  
 一團トスルナリソノ時天下十道ニ軍府六百餘アリ唐書  
 兵志云凡天下十道置府六百三十四皆有名稱

而關内二百六十有一皆以隸諸衛云々

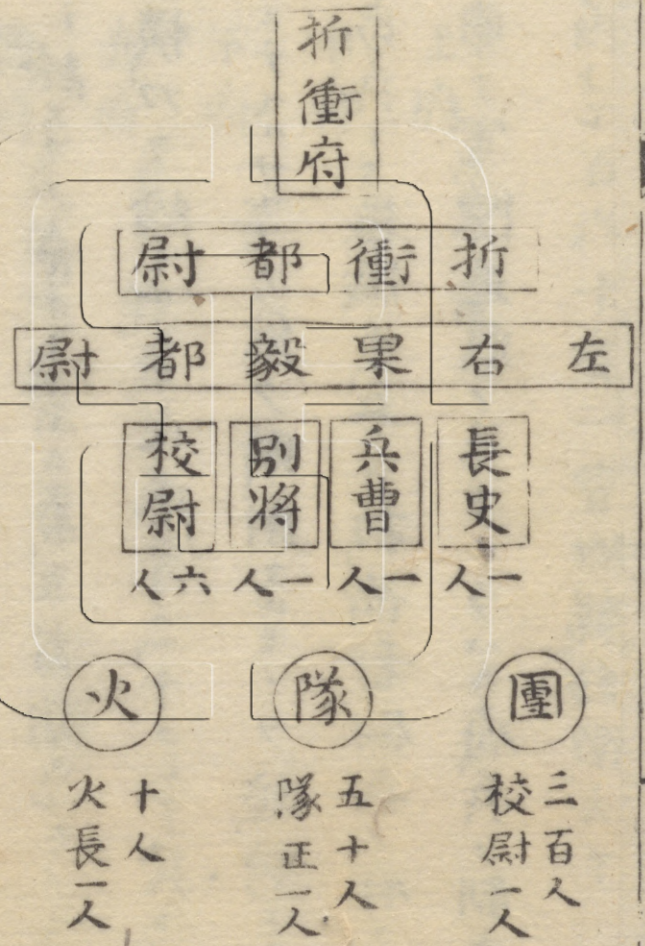
唐府兵五等圖



每一府ノ人数ノワリ十人ヨリ積リテ十人ヲ火ト云  
 火ニ火長一人アリ五十人ヲ一隊ト云隊ニ隊正一人

アリ三百人ヲ團ト云團ニ校尉一人アリ大凡一火コト  
 ニ六、駟馬ヲ備ヘ凡火具幕等ノ品々皆フナハルツノ介  
 冑等ノ武具ハ常々六庫ニオサメ征行アル時ニコレヲ  
 出シ給スツノ府ヨリ京ニ番上宿衛スルモノハ夕ノ弓  
 矢横刀ヲ給スレノ三凡民年二十ニシテ兵ト成リ六  
 ナニテユルサルツノ能ク騎射スルモノヲ越騎トシツノ餘  
 ヲ歩兵トス毎歳季冬ニ折衝都尉兵ノ府ニアルモノ  
 ヲ率テ軍陳進退ノ法ヲナラハス府兵ノ制大畧カ  
 クノコトシ

唐府兵統轄圖



杜氏通典云司馬法ヲ引キ又一説ヲ舉ケテ云凡立軍  
 一人曰獨二人曰比三人曰參比參曰伍五人為烈  
 烈有頭目二烈為火十人有長立火子五火為隊

五十人有頭目二隊為官百人立長云々十人ヲ火ト云  
 コト是ニ本ク火ハ後世夥字ト通用シテ何ニテモ人ノクミ  
 中カ間ノコトヲイフ

○凡府兵ハ皆諸衛ニ屬ス左右衛ハ皆六十府ヲ領ス諸衛  
 ハ府五十ヨリ四十ニテヲ領スツノ餘リハ東宮ノ六率府ニ  
 隸サテ兵ヲ發ス時ハ符契ヲ下シテ州ノ刺史ノ官折  
 衝都尉トギニシテ兵ヲ出ス全府コトクク發スル時ハ折  
 衝都尉下盡ク行ク全府ユカザルトキハ果毅都尉行ク又  
 人數スナキトキハ別將バカリ行クサテツノ府ヨリ京へ上

リテ宿衛スル次第ハ兵部へ番上ニテ遠近ヲ以テ番ヲ給五  
百里ヲ五番トシ千里ヲ七番トシ千五百里ヲ八番トシ二  
千里ヲ十番トシ其外ヲ千二番トシテ皆以テ月上ス又直  
衛ノモノヲ簡留セラルモ五百里ヲ七番トシ其外段々次第  
アリテ亦以テ月上ススベテ月上ト云ハ在京ニテ都ニ直衛ス  
ル一ヶ月ヲ云月番ノコトナリ 本朝前世武士ノ國々ヨリ京  
番ニ上ルコト何レモコノ制ヨリ衛士ト云コトモ唐ヨリノ名目ナリ

○高宗武后ノ時ヨリ天下久シク太平ニシテ府兵ノ法ヤウヤク  
壞レテ番役更代時ヲ以テセズ衛士カクニテ玄宗ノ世成

リテイヨク減少セリ開元十一年ニ宰相張詠カ計ニヨリ

テ京兆近邊ノ府兵並ニ白丁ヲアツメ潞州ノ長從兵

ヲ加ヘテスベテ十二萬是ヲ長從宿衛ト號シテ一年一番

リニ宿衛セシム明年ニイタリテウイ名ヲ改メテ曠騎ト云後

ニナリテ十二萬ハ少シテ六番ニカチテ十二衛ニ分隸ス曠師

古曰弓引滿曰曠又凡迅捷者曰曠ト正字通ニ見ヘリ

天寶ヨリ後ニテノ制又變ニスルテ六軍衛皆市人富者ニ

シテ祿山カ亂ニ及テ皆甲ヲ受ルコトアタガレニイタル

○フノ後方鎮ノ兵オコル方鎮ト云ハ本ハ邊將ノ夷狄ノ境ヲセ

制度  
卷之三  
九

成スルモノナリ唐ノハシラニ兵ノ邊ヲ成ルモノヲ大ヲ軍トシ小ヲ守  
捉ト云城ト云鎮ト云テスベテ是ヲ道ト云道ゴトニ大將一人  
アリ大總官ト云又更メテ大都督ト云高宗ノ永徽ヨリ後  
ニ都督ノ帶使持節者ヲ公シテ是ヲ節度使ト云玄宗  
以後安祿山史思明ノ亂ニヨリテ武士ノ功アルモノ侯王  
ニ封セラレ皆節度使ニ除セラレテ邊地ノミニカギラス國々ニ多  
クアリイヅレモ數ヶ國ヲキリ取テ甚勢アリ通考ニ云方鎮  
相望於內地大者連州十餘小者猶兼三四ト是ナリ  
是ヨリ節度使タルモノ代々相續シテ父死シテハ子ソノ兵ヲ

掌リ或ハ士卒ノ内ヨリ將吏ヲエラシ立テ號シテ留後ト云イ  
ニシヘ周ノ時諸侯ノゴトクニシテ天子ノカモ制スルトアタハズ  
朱泚李希烈王承宗吳元濟ガコトキ是ナリ其後天子  
自ラ軍ヲ置テ禁軍トシ左右神策軍ト號ス宦者是ヲ  
掌ル次第ニ亂ニオモキテ唐ホ日五代十國ノ世トナル是ニ  
ヨリテ唐ノ兵制ニ變ストイフ

○唐書兵志ニ云唐有天下二百餘年而兵之大勢三變  
其始盛時有府兵府兵後廢而為彊騎彊騎又廢  
而方鎮之兵盛矣及其末也強臣悍將兵布天下

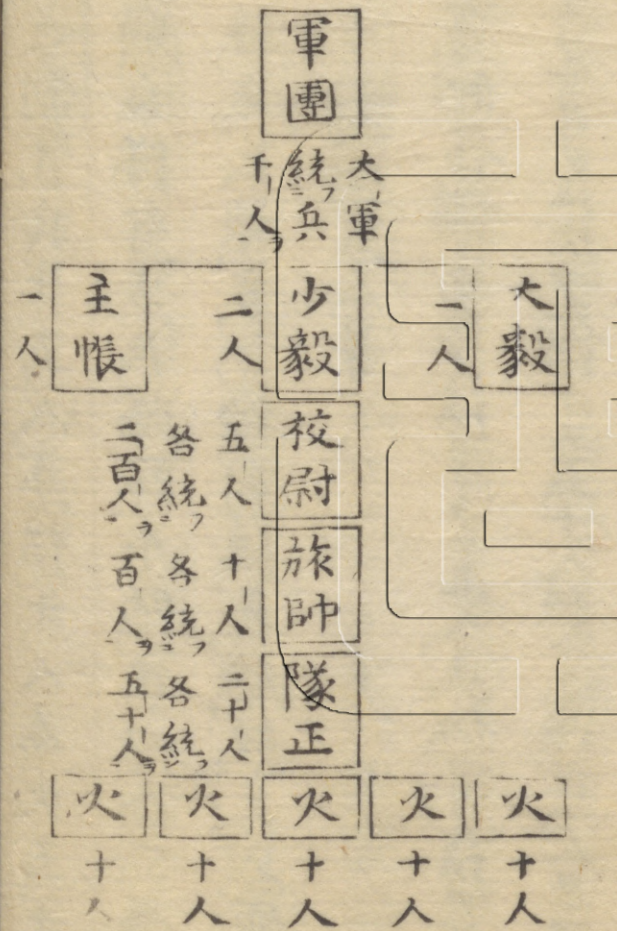
而天子亦自置兵於京師曰禁軍其後天子弱方鎮強而唐遂以止滅者措置之勢使然也

○右唐ノ兵制大畧カクノコトシ府兵ノ時府ノ上中下オシテテ千人トツモルトキ其時天下ニ府六百三十餘アリカハ天下軍兵ノ數六十三萬ガリナリ通典ニ云每歲十一月以衛士帳上于兵部以候徵發天下衛士尚六十萬人天寶八年五月停折衝府十一年八月改諸衛士為武士ト云々憲宗ノ時之和國計簿ヲ作ル時ニ天下ノ兵縣官ニ仰給スルモノハ三萬餘人天寶ノ時ヨリハ三分ノ一ヲマス

本朝之制凡兵士五人為伍十人為火五十人為隊有騎兵隊有步兵隊隊有隊正一人二隊有一旅帥統之二旅有一校尉統之總統之以軍團有大毅少毅團有三等

○本朝ノ軍制モ中國古来ノ法ニテラロ五人為伍ヨリ積アゲテ十ヲ一火トスワレヨリ五火ヲ一隊トス五十人組ナリ隊正一人コレヲ掌ルニ隊ヲ旅トス百人組ナリ旅帥一人是ヲ掌ルニ旅ヲ校トス二百人組ナリ校尉一人是ヲ掌ルコト上ヲ團トシテ團六團毅アリ人数ノ品ニヨリテ上中下ノ三等アリ五百人以下ノ團ニタゞ毅一人アリ六百人以上ニハ大

本朝軍團統轄圖



毅少毅各一人アリ千人ニ滿ル時大毅一人少毅二人アリ是ハ唐ヲ諸國ニ折衝府ヲ置キテ人数ニヨリテ上中下ノ三等アリ其頭ヲ果毅都尉ト云ラ模シクモナリ校尉旅帥隊正等ノ名ハイッモ直ニ唐ヲ用ルナリ

○軍防令云凡兵士各為隊伍義解ニ謂五十人為隊也五人為伍也ト又令ニ云凡兵士十人為一火トコノ外團旅ノツモリノコト皆令ニアラハル考フヘシ

○又云凡兵士各為隊伍使コリ馬者為騎兵隊餘ヲ為步兵隊

○唐ノ府兵ノコト上ニ舉ル通リ天下所々ニ營ヲコシラヘ人数ヲサシ置カル六百餘府アリ唐書通考等ニ詳ナリ 本朝ノ

軍團ハ諸國ノ郡コトニ人数五百人ヨリ以上千人ニテノ備ヲコシラヘテ常々ニ京ヘホソリテ皇城ヲ宿衛シ又ハ邊防ノ處

ニ行テ成トナル衛士防人トイフ是ナリサテ軍ゴトアルトキハ大将  
 軍ニ從フテ國々ニサレ向フ令ニ云凡兵士向京者名衛士守  
 邊者名防人ト是ナリ

○軍團ノ設ハ諸郡ニ是ヲ置ク然レトモ郡ゴトニ是アルトモ見ヘス郡  
 ニヨリテ或ハ置キ或ハ置カズ處々ノ要室土地ノ形勢ヨリテオカナク  
 ○凡兵士一人ゴトニ弓一張弦袋一口副弦二條征箭五十隻胡  
 錄一具太刀一口刀子一枚等ヲ備フ火十人ゴトニ紺布幕一口等  
 ラ備フ五十人ゴトニ火鑕一具熟艾壹斤手鋸一具ヲ備フイツ  
 レモ自ラコレヲ辨スフノ外品々道具ノコト令ニ詳ナリ弓馬ニ便ル

モノヲ騎兵隊トシ其餘ヲ歩兵隊トス上番ノ次第兵士京ニ  
 向フコト一年防ニ向フコト三年事オハリテ郷ヘカエハ衛士ハ一年  
 防人ハ三年ヲ國內ノ番ラユス校尉以下イツレモ同前ナリ

○サテ兵ヲ發スルコト十人以上上關を國々契ヲ用ヒ他國ハ勅符  
 ラ用ヒ引合セテ是ヲ發ス防人千人以上ヲ發スルハ内舍人ヲ遣ハシ  
 テ發遣セム征討ニ千人ニ滿ル以上三兵馬發ス時カニ侍從ヲ遣  
 ハシテ勅ヲ宣テ尉勞ス別ニ武官ヲ置カルコト見ズ三千人ニ滿ル  
 キハ將軍副將軍軍監軍曹ノ官アリテ是ヲ統攝ス是ニ於テハ  
 メテ一軍ト云軍ニ三等ノ別アリ五千人以上一萬人以上ト人数

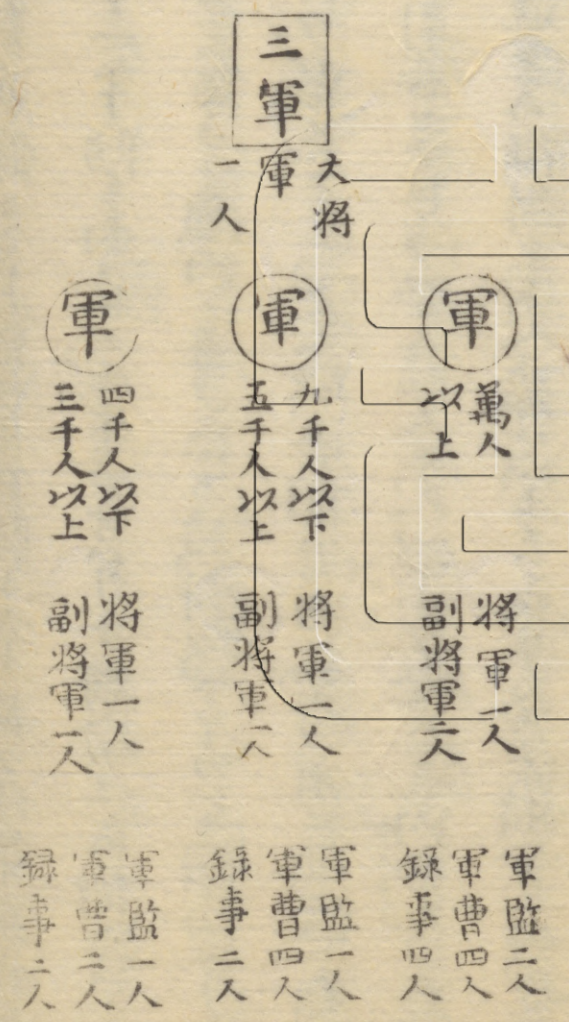


多少ニヨリテ武官ノ負數同カズカクノ如キ軍ヲニツアセタルヲ

三軍トシテ大將軍スアリ圖ヲ下ニアラスイツレモ臨時ノ官ニテ常

ニ置カルコトナシ軍陳ノ時カミカクノゴトクニ立タルモノナリ

本朝行軍將軍官圖



○是モ他ノ官ノ四分配當ト同シキコトニテカミスケゼウサクワニ準

ス故ニ軍曹錄事ハ佐官ナリ今義解ニ云軍曹者大主典

也錄事者少主典也ト是ニテシヘシ

本朝ノイニシヘ禮樂制度モハテ唐ノ制ニヨリテ増損斟酌

スルコト夫<sup>ヒトク</sup>人コレヲシレリ今ニイタルニテ律令ニアラハルトコ

考ヘシルヘシレカレトモ賦稅ノ法唐ニ倣ヒテ租庸調トカツコト

ハ明カニシリダクシ兵制ノ唐ノ府兵ニヨリテ損益スルコトハ

トモシレガクシ通典六典等ニラスレコトノ文甚繁多シ

テニカニ會得シカタク且本朝兵制ノ俗リタルモヨホト

年久シク上世ノ事ナリユヘニ律令ニアラハレトコロ明文アリ  
 トイヘトモ考ヘ合セカタキナルヘシヨリテヒワカニ唐ノ律令ノ文  
 ニヨリ參伍考訂彼此引アハセテ説ヲナスコトカクノゴトニ好  
 古ノ人ツレセレヲタメセ

○宋ノ兵制大槩ニ等ヤリ京師ヲ守リ征戍ニ備ルモヲ禁  
 軍ト云天子ノ衛兵ナリ諸州ノ鎮兵役使ニ分チ給スルモノヲ  
 廂軍ト云戸籍ニ選テ團結訓練シ所々ニ防守スル則郷  
 兵ト云又蕃兵アリ塞下内属ノ諸部落團結シテ蕃  
 籬ノ兵トスルナリ太祖ノ時ニ天下ノ兵ヤウヤクニ十萬アリ

テ十餘萬ハ京師ニ在リテ諸道ヲ制シ十餘萬ハ諸道ニ在リ  
 テ京師ニ當リノ事通典ノ内宋儒議論ニ神宗ノ聖訓ヲ  
 引テカクイヘリ宋ノ國初天下ノ兵數甚寡キコト是ニテ云  
 ○仁宗ノ時宰相韓琦上書ニタ開寶之舊籍スヘテ二十七萬  
 ハ千ニシテ禁軍ナ九萬三千トイヘリ是ヨリ太宗ノ與宗仁  
 宗ヲヘテ英宗治平ノ初ハ兵百十六萬二千ニシテ禁軍馬  
 步六十六萬二千アリ祖宗ノ時ニテハ甚倍増セリ是ニ  
 リテ神宗ノ時ニ冗兵ヲハブカル冗兵トハ無益ノ士卒ナリ

○神宗ノ時ニ國家ノ財用ヲ節スルコトヲ尋ラレ王安石奏レ

テオモヘラク兵ヲ減スルヨリ急ナルナレト是ニヨリテ保甲ノ法ヲ  
行フ保甲トイフハ畿内ノ民十人ヲ一保トシテツノ内富ルモ

ノ一人ヲ長トス是ヲ保長ト云五十家ヲ一大都保トシテツノカ

ララ大保長ト云十大保ヲ一都保トシテツノ内ニテ衆民ノ服

スルモノヲ選ニテ都保正トス常々ニ武藝ヲ習ヒ盜賊ノ備ヲナ

サシム是ヲ保甲ト云初ハ畿内バカリニテ是ヲ行フ次第

ニ國々ヘオレテ後ハ天下ニ通行スコレヨリサキハ募兵トシテ

武士ヲアツメテ備トスコノ時ニ是ヲ改メテ民兵ニセラレイニハ

農兵ノ意ニテ常々ニ耕作ヲシテ事アルトキハ武士ニシタツ

コトナリ哲宗位ニ即キテ太后臨朝ス知陳州司馬光上疏

シテ保甲ヲ罷止ント請フ遂ニ光ヲ用ヒテ明下侍郎トシ政

ヲトラン保甲ノ法アラタリテ冬二月ノ内バカリニ武ヲ習

フ温公上書ノオモキハイニハ八百家ニ甲士三人歩卒七

十三人ライダレニ時農ヲツトメテ時武ヲ講スレカレニ保甲

ノ法ハ鄉村ノ人民ニ丁ノ内ニテ一人ヲ取リ又五日ゴトニ武藝

ヲ習フ是ニヨリテ農業スレ急リ比戸サハガレク畢竟利

益ナキコトナリト是ハ古法ニモカクノゴトキコトアリテ農兵モト

アシキコトニアラザレトモ後世ツノ事久シクスタレタルニ人ヤレツ

ケズ且法ノ行ヒヤウヨロシカラハレヨリテ、コトト見ヘタリ、府兵強  
騎ノコトハ各別ノコト、身合ノ兵ヲカリアツメテ兵トスルヨリハヨロシ  
カレシ、其後徽宗ノ時ニ諸路ノ保甲六十一萬餘人アリ、コヨ  
リ民兵モ又亦トハ南渡ノ後詳ニ舉ルニオヨバズ

○元ノ兵制又疎畧ナリ、丘瓊山ノ云ニ起朔漢兵制簡畧  
不可為法トソレニ、明ノ世ハ元ノ後ヲ接トイヘトモ、元ノ法ニヨラズ

○明ノ時國初内ニ在リテハ錦衣等上十二衛ヲ設ケテ宮禁  
ヲ衛ル是ヲ親軍指揮使司ト云テ番上宿衛レテ属スル  
コロナレ又留守等ノ四十八衛アリテ京城ヲ衛ル五軍都  
督府ニ分属ス軍陳ノ時多ニ是ヲ調發スソノ後天下ニ都  
指揮使司十六處行都司五所アリ内外衛スベテ若千  
ノ置ク所ノ軍士イツレモ定數アリ

○明ノ兵制百千戸ト積ミ上ゲテ其上ヲ衛ト云ツ百戸  
所ト云ハ人數百十二人アリツノ内ニ總旗二人ツカヒラ小旗十人ア  
リ何レモ小頭ナリコヲ十アハセタルヲ千戸所ト云ハ人數千百  
二十人アリコノ人數ハキビリテアリ千戸所ヲ五ツ合セタルヲ  
衛ト云ハ大率五千六百人アリ是ハ人數不同アリコヲ組ニ  
合セテ備ヘトス丘氏曰管領鈐束以成隊伍ト是ナリコ外

ニ又王府ノ護衛アリ處々親王ノ國ニ公儀ヨリツケラル守  
護武士ノ備ヘナリ是明ノ兵制ノ大畧ナリ

○經國雄畧云文帝下都北平云々原額伍籍通  
計八十三萬省奇滇黔諸土司不在焉ト永樂ノ時  
ノ軍額カクノゴトシ

○續文獻通考云嘉靖八年桂萼上天下兵籍僅九十  
七萬至胡松年考輿地又止八十四萬五千八百而已然  
此又虛數也ト明ノ末武備オトロヘ軍士ノ數モスクナキ是  
ニテルベシ衍義補ニ又當時一衛ノ人數ワツカニ半バニ及フモヤ  
リ又甚クシテハ十分ニテニ三モナシトイヘリ是又アセ考フヘシ

古今ノ兵制通シテコレヲ考フルニイニレハ封建ノ世ニテ兵  
ヲ農ニ寓シ井田ノワリニテ兵車ヲイダス所謂千乘之賦  
百乘之家トイフノ類是ナリ秦ノ法ヲヤブリ漢ニイタリ  
テ秦ノ制ヲウケテ材官ノ法オコレツノ後北齊ノ比ヨリ府  
兵ノ法ハレリテ唐ニイタリテワノコトヲナハレリ唐ノ世兵制  
三變シテ五季ノオトロヘニイタル宋ハ五代ノ弊ヲコリ兵ヲ  
京師ニアツク石守信ガ兵權ヲ解キテヨリ天下ニ藩國ノ類  
ナレ其後募兵民兵等ノ法ニチカニテ宋ハトテ明

ニイタリテ百戸千戸衛ノ法オコル畢竟漢ノ材官唐ノ府  
兵明ノ衛所ワ法カハサアリトイヘトモ何レモ國々ニ兵營ヲ  
立オキ士卒ヲアミタアツメテソレニ大將ヲ置テソノ下ニ偏將  
裨將等ヲリユルアトナリ秦己來諸侯ノ國廢シタル上ハ  
處々ニカクノゴトクツチヘヨセザハカナザルコト、見ヘタリ

制度通卷十二畢

制度通卷十三

伊藤長胤 輯

▲五刑ノ事

○古ハ聖王仁義禮樂ヲ以テ天下ヲ化動シタヒテ天下太  
平ナリ然レトモアマタノ人ノ中ニハ惡逆無道ノモノアリテ人  
ノ害ヲナス之ヲ除カザハ萬民ノ難義ヲ致スニ因リテ刑罰  
アリテ之ヲ輔ク故ニ堯ノ時皋陶ヲ命シテ士官トシテ之ニ  
告テノクニ汝作士明于五刑以弼五教期于予治刑期

于無刑民協于中ト此刑罰ノハジテ經ニ見ハルモノナリ

五刑ノ名目舜典ニミエズ周書ノ呂刑ニ五刑不簡正于五

罰ト云々墨劓剕大辟ヲアケ先儒コレヲ以テ舜典ヲ注

ス墨トハ入墨ラスルト劓トハ鼻ヲキルト剕トハ足ヲキルト又

刑ト云宮トハ淫刑ナリ男子ハ勢ヲ断ツ女子ハ宮中ニ幽閉

スナリ大辟トハ死罪ナリ周禮ノ司刑ニ墨罪劓罪剕罪

殺ト云リ同キコトナリサテ五刑各罰アリ罰ト云ハ罪アルモノ

科代ニ財ヲ出スコトナリ之ヲ五罰ト云周禮ノ大司寇ニ又

ム以五刑糾萬民ト野刑軍刑鄉刑官刑國刑ノ五ツヲ

アケ注ニ刑亦法也糾猶察異之トコノ五刑ハ肉刑ノ五刑ト異ナリ

周禮ノ掌戮ニ云斬殺賊謀而搏之ト注ニ斬以鈇鉞斧

要斬也殺以刀刃若今棄市也トイツモ今ノ斬罪ノコトナリ

搏ハ又搏ニ作ル音番搏反磔也ト云々コレハ今ノハリツケノコトナリ

又周禮ニ焚ト云コトアリ注ニ易ノ焚如死如ヲ引ク火アブ

リノコトナリ又辜ト云コトアリ注ニ辜之言枯也謂磔之トコ

レモハリツケノコトナリ又肆ト云コトアリ注ニ申也陳也トアリ論

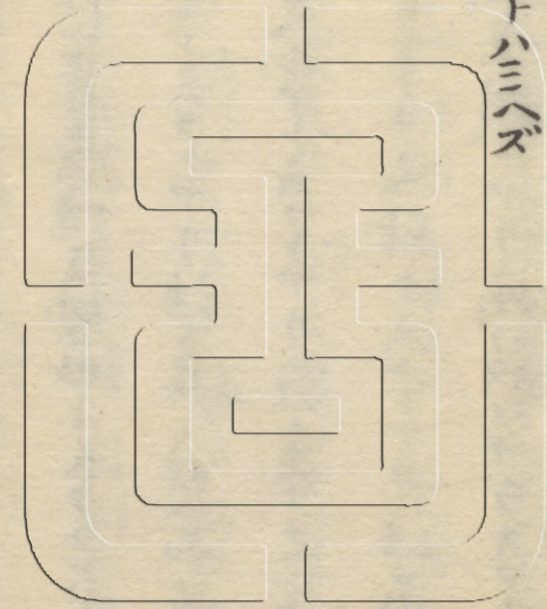
語ニモ肆諸市朝トアリ死骸ヲサラストナリイツレモ周禮

ニ詳ナリ考フヘシコノ外輶裂衣烹等ノコト左傳漢書等ニ見

ハルイツモ春秋以来戦國ニ及フテ一時ノ濫刑ニシテ名例ノ

定リタル法トハ三ヘズ

三代五刑 墨劓剕宮大辟



秦ノ世ニ至リテ刑罰イヨク苛刺ナリ初メ諸侯タル時ヨリ文

公ノ世ニニ族ヲ誅スル法ハジメテオコレリ孝公ノ世ニ商鞅ヲ用法

令キビシク始白王ノ天下ニイタリテ梟首車列名體解等ヲ

シ用ヒ又鬼薪城旦等ノ罰オコレリ鬼薪トハ罪アルモノヲ

科代ニ宗廟ノ薪ヲトラシムルコトナリ城旦春トハアレタニ起

テ城ノクレンシ役ヲモルト婦人ハ米ツクコトヲ科代ニスルナリ

漢ノ世ニテモコノ法ヲ承行フ

○漢ノ高祖ノ世ニ及ニテ秦ノ苛法ヲ除キテ約法ニ三章ニキ

ハスレ曰殺人者死傷人及盜抵罪トアリレカレドモ族誅等ノ法

ツノマ、秦ノゴトクニシテサノ三刑名ノ品ヲ改メラル、コト見ヘス

其後三章ノ法不足禦奸ニヨリテ蕭何ニ命シテ秦ノ法



ヲ拾ヒテ律九章ヲ作ラシメ叔孫通是ヲ益シテ十八篇  
ヲ作ル刑名ノ品是ニオイトテ定レリ

○文帝ノ時ニ齊大倉令淳于公ト云モノ罪ヲ犯シテ刑ニテタ  
ルツノ女子ニ縊縊ト云モノアリテ上書先父ノ死ニ代ランコトヲ  
願フ文帝是ヲ憐ニテ肉刑ヲ除カル律ヲ定メテ諸ノ髡スベ  
キモノヲ完レテ城旦舂トシ黥スベキモノヲ髡鉗シテ城旦舂  
トシ劓スギモノヲ笞二百左ノ趾ヲ斬ルヘキモノヲ笞五百右ノ  
趾ヲ斬ルヘキモノ並ニ殺人自告ルモノナドヲ皆棄市スソノカミ  
外ニハ輕刑ノ名アリテ寔ハ死罪ニイタルユヘニ景帝ノ世ニイタ  
リテ更ニ律ヲ改メ定メテ笞五百ヲ減シテ三百トシ三百ヲ二百  
トス後又三百ヲ二百ニシ二百ヲ百ニ減シテ笞ノ令ヲ定長  
サ五尺ニテ本口一寸末ノ薄サ五分ニテクノ節ヲ削リ平  
ゲテ笞ウツトキハ人ノ臀ヲウツ是ヨリサキハ人ノ背ヲ笞ウ  
ツテリ後世ニイタキテ笞杖ノ刑ハコノ時ノ數ニヨリテ増損  
セリ武帝ノ世ニイタリテ律令三百五十九章アリ其後兩  
漢ノ間刑名ノ増損セシ方ハルコトナシ

○三國ノ時ニ及テハ馬融鄭玄等律ノ章句アリテ新罪ノ  
用ユベキモノ二萬六千二百七十二條ニ及ヘリ明帝ノ時ニ

陳群等ニ命シテ舊科ヲケヅリ約カニシテ魏ノ法制ヲ定  
律十八篇ヲ作ル又古義ニヨリテ五刑ヲ制ス死刑髡刑完  
刑作刑贖刑トイフ

○北齊ノ昭成帝河清中ニ齊律ヲ作ル十二篇アリ大抵  
魏晉ノ故事ヲ採用シテ其刑名五アリ一曰死二曰流刑三

曰刑罪即耐罪ナリ四曰鞭五曰杖ト又重罪十條ヲ定  
ル後世二十惡ト云ハコレニモトツク後周ノ律二十五篇其刑

五等杖徒鞭流死ナリ死刑ニ又五等アリテ磔絞斬梟  
裂ト云コノ外世々贖刑ノ差アリテ科代ニ金ヲイダス是ヲ罰

金ト云又贖銅トモ云何レモ前代ノ法ヲ損益シテ少々異  
同アリ隋唐以來ノ法モ又コレヨリイデクニモノナリ

磬古ヘ磬ニ作ル本禮記ノ文王世子ノ篇ニ出ツ曰公族

其有<sup>レ</sup>死罪則磬于<sup>レ</sup>甸人皇氏曰如懸樂器之磬

也集說ニ懸<sup>レ</sup>縊殺<sup>レ</sup>之<sup>レ</sup>也トイヘリ絞モレンコロスコトナリ磬

トノ違ヒハツラザレバカリナリ同<sup>レ</sup>死罪ニ絞斬ヲハツコト北

齊ノ世ヨリハヅレテ隋唐以來明マデコレニヨル通典ニ斬

刑殊身首其次絞刑一死而不殊支體ヲ切ハナスト全

クストノ差ナリ磬刑ハ又カルキト見ヘタリ

○隋ノ時ニ文帝高頴等ラシテ新律ヲ定ムル十二卷五百條アリソノ刑名五アリ一ニ死刑ニ等絞斬ニ流刑三等千里ヨリ二千里ハ三年ニイタルニ徒刑五等一年ヨリ三年ニイタル四ニ杖刑五等十ヨリ五十ニイタル是ヲ笞杖徒流死ノ五刑ト云コノ時ヨ前代ノ梟首輓裂ノ法ヲ除キ流徒ノ刑モ皆減シテ輕キニシタカフ又十惡ノ條ヲ置キ議請減贖當免ノ法アリ大抵北齊ノ法制ヲ採リ用ヒテ少少損益アリ煬帝ノ世イタリテ又刑ヲユルニス律十八篇改メテ是ヲ大業律ト云然レトモ大業ノ末ニ及ンテ刑法又

嚴峻ニシテ天下大ニミタル

○後世五刑ノ名目コノ時ニサダメリ徒トイフハ疏議ニ徒者奴也蓋奴辱之トイヘリ周禮ニ其奴男子入于罪隸任之以事實之圜土而教之量其罪之輕重有年數而捨息ナリ男女ノ罪アルモノソノ科代ニ一處ニシテ普請細工等ヲサセ罪ノ輕重ヨリテ年數アルコトナリ漢ノ時ニ城旦舂鬼薪白粲隸臣妾後漢ノ輸作左校等曹魏ノ作刑隋唐ノ居作配五代宋ノ配役刺配ナド名ハカレドモ何レ徒罪ノコトナリコレヲ徒トイフコト五代晉ノ天福ノ比ヨリハシマリテ

ハレ墨ヲレテ配スルヨリテ是ヲ刺配トイフ宋ヨリ以來モコレアリテ明ニ刺字ト云又漢ノ髡完彫トイフモ髡髮ヲソリケツルコトナレドモソノ後ニ又城旦等ノ刑ヲ加ヘ役ニ使フコトヲ徒刑ノ類ナリ

○唐ノ高祖開スリテ苛政ヲ除キ約法十二條ヲ定メラル武德四年ニ律令ヲアラタ撰ムル五刑ノ自隋ノ制ヨレリ

笞刑五	一十	贖銅 一斤	二十	贖銅 二斤	
三十	贖銅 三斤	四十	贖銅 四斤	五十	贖銅 五斤
杖刑五	六十	贖銅 六斤	七十	贖銅 七斤	

徒刑五	八十	贖銅 八斤	九十	贖銅 九斤	一百	贖銅 十斤		
二年	贖銅 十斤	四年	贖銅 二十斤	二年半	贖銅 十五斤	三年	贖銅 二十斤	
流刑三	九十里	贖銅 八斤	二千里	贖銅 二十斤	三千里	贖銅 三十斤	二千里五百里	贖銅 二十斤
死刑二	絞	贖銅 二十斤	斬	贖銅 二十斤				

唐ノ法立春ヨリ秋ノ末ニテノ内ハ死罪ヲ行ハズ是ハイニシヨリ

ノ法ニテ唐ニハ死罪ニアラズ又囚ヲ拷問スルコトハ三度ニ過キズ毎訊相サレト二十日ヨリ二十日ノ間ヲオキテ拷問スルコトナリ

○唐ノ時諸杖ノ制節目ヲ削リイツレモ三尺五寸ナリソノ内  
 訊囚杖ハ大頭三分三厘小頭二分二厘常行杖ハ大頭二  
 分七厘笞杖ハ大頭二分小頭一分半ヲ外扭枷等ノ制及分  
 本朝之制凡制五罪其一曰笞罪其二曰杖罪其  
 三曰徒罪其四曰流罪其五曰死罪死罪二等絞  
 斬贖銅各有差

○名例律ヲスル所刑名ノ次第カクゴトシ全ク唐ノ制ニヨリテ  
 少々損益アリ是ヲ五刑トイハズレテ五罪ト云又三流二死  
 ノ贖銅ノレト唐ノ法ヨリハヤ、オモレ各コレヲ下ニアラス

本朝		朝		五		罪		圖	
笞罪五等	一十 贖銅一斤	杖罪五等	六十 贖銅六斤	徒罪五等	一年 贖銅十斤	二年 贖銅十四斤	三年 贖銅二十斤	流罪三等	近流 贖銅百斤
三十 贖銅三斤	四十 贖銅四斤	八十 贖銅八斤	九十 贖銅九斤	二年 贖銅十四斤	二年半 贖銅十八斤	三年 贖銅二十斤	三年 贖銅二十六斤	遠流 贖銅一百四十斤	絞罪 贖銅二百斤
一十 贖銅一斤	五十 贖銅五斤	六十 贖銅六斤	七十 贖銅七斤	一年 贖銅十斤	一年半 贖銅十三斤	二年 贖銅十八斤	二年 贖銅二十斤	死罪二等	斬罪 贖銅二百斤
二十 贖銅二斤	七十 贖銅七斤	七十 贖銅七斤	一百 贖銅十斤	二年 贖銅十四斤	二年半 贖銅十八斤	三年 贖銅二十斤	三年 贖銅二十六斤		

右 本朝五罪ノ等カクノゴトニトクク唐ノ法ニヨリソノ内  
 贖銅ノレナ流罪死罪ノニツハ唐ヨリヨホドオモシ且六本  
 朝イニヒヨリ國ニ金穀豐饒ナルヨリテナルヘシ苛刻ニシテ唐  
 ヨリオモクセラルニアルジキナリ又罪一等ヲ加減ストイフ答  
 罪ナレハ十ヨリ五十ニテ杖罪ナレハ六十ヨリ百ニテ各十ツラ一  
 等トシ徒流死モ同レコトナリ徒罪ハ年數ヲ以テ等ヲナス死  
 罪ハ絞一等斬二等ナリイツレモ上ニ擧ル通リナリ絞罪斬ヨ  
 リ輕キワケハ絞罪ハ時ヲ待テコロシ死罪ハシカラス時トイフ立  
 春ヨリ秋ノカマデノ内ハ一年ノ内陽氣發生ノ時節ナルユニ王

者天道ニリトリテ人ヲ刑ヤラルコトナシ故ニ 本朝獄

令云自立春至秋分不得奏決死刑ト是ナリカモ重

キ罪科ハソノ時ヲ待タズシテ刑ス是死罪ナリ絞罪ハソノ

テモソノ時ヲ待チ合セテ春夏ノ内ニ刑セズソノ内モ恩詔

アリテ赦ニ遇ハ徒流ニ配マ故ニ絞罪ヲカルトス牛リ法曹至

要鈔ニ詳ナリ考フヘシ

○本朝笞杖ノ制イツレモ節目ヲ削リサリテ長サ三尺五寸ニ

ツクルソノ内訊囚杖並ニ常行杖ハ大頭徑四分小頭三分

ナリ笞杖ハ大頭三分小頭二分ナリ訊囚杖ハ罪人ヲ拷問

ス杖ナリ笞杖ハ笞ニ用ニ杖ナリ笞ト杖トニアラスヘテ笞早  
杖ト臀ヲ打ツ拷問ノ時ニ背ト臀トハカケテ是ヲ打ツイツレモ  
令ニ詳カナリ

○五代ノ世刑多ノ事カ分ヨトモ梁ノ時ニ新ニ格式律令ヲ定メ  
テ頒下ニテ施行フ周ノ顯德四年侍御史張湜等ニ命レ  
テ刑統二十一卷ヲ作シ刑名ノ事ハ唐法ニ因テ沿革アリトシテ

○宋ノハジ大理寺實儀刑統三十卷ヲ重定ス刑名亦前代  
ニ因テ損益アリ仁宗ノ時ニ荆湖ニ人ヲ殺シテ鬼ヲミシモ  
ノアリ凌持シテ斬ル文獻通考ニコレヲ舉ケテ注ニ凌遲ニ

作ル馬氏曰凌遲者先斬其支體次斷其吭國朝之極  
法也ト前代ニコレヲ吊ト云唐ノ安祿山ノ亂ニ顏果卿ヲ吊  
スト云リ字彙ニ吊古尾切音寡說文別入肉而置其骨  
也トレカレドモ定リタ刑名ニアラズ

○元ノ刑名大樞書宋ノ制ニ因リ英宗ノ時宰相儒臣ニ命シ  
前代ノ書ニ因テ損益ヲ加ヘ大元通制ト云ソノ書ノ大綱三  
アリ一ニ詔制ニ六條格ニ六條斷例大槩世祖已來ノ法制  
事例ヲトリテ書ヲ成スソノ五刑ノ目凡セ下ヨリ五十七至  
コレヲ答刑ト云凡六十七ヨリ一百七ニ至ルコレヲ杖刑ト云徒ノ

法ノ年、數ハ杖ノ數ニ因テ加減アリ流刑ハ南人ハ北地ニウツシ  
 北人ハ南方ニウツス死刑ハ射斬アリテ絞ナシ惡逆ノ極ルモノハ  
 又凌遲ノ法アリイツモ續通考ニ詳ナリ又丘瓊山曰自  
 隋唐以來除去前代慘刻之刑死罪惟有絞斬ニ  
 者至元人又加之以凌遲處死之法焉所謂凌遲  
 處死即前代所謂鼎也前代雖於法外有用之者  
 然不著于刑書著于刑書始於元焉

○元ノ時答刑七下ヨリ五十七ニ至ルト云コトハ初刑名ヲ定メ  
 ラルトキニ杖罪ステニ定リテ後曰天饒他ト下地饒他ト下  
 我饒他ト下ト云テ一罪ノ上ニテニツツ・ユレタニフアリハ  
 天ノユレレハ地ノユレレハ天子ノユレト云コト見ヘタリシハ  
 ルニ因テ十打ツヘキモノヲニツヘラシテ七下トシ六十ウツ  
 ヘキモノヲニツヘラシテ五十セトスルナリ後アヤリテセノヒ  
 反テ十ヲ加フコトアリコトヲ正サシ又續通考ニツフサナ  
 リ凌遲ヲ刑書ニ著スハ不仁ナリトイヘトモ杖ヲニ下ニ  
 ス元人ノ仁ナリ

○明ノ時國家ノ執法モノ刑部都察院大理寺ナリコ  
 シ三法司ト云都察院ハ前代ノ御史其率ナリコニ司ニテ



天下ノ刑罰ヲサバシクノ外五刑並ニ十惡ハ議等ニコト  
イッレモ前代ニ因テ損益アリソノ内ニ徒刑流刑ニモ又杖  
罪ヲ加フコレ唐トコトナリ丘氏衍義補ニ云宋因唐制每  
流各加以杖而又配役則是五刑之中兼用徒流杖  
三者矣本朝流罪惟有杖而不配役比宋為輕矣

○又五刑ノ外ニ遷徙トイフコトアリテ郷士ヲ遷離スルコト  
一千里ノ外ヲイフ大明律例ニ詳ナリ

明	答刑五	一十	二十	三十
	杖刑五	四十	五十	六十
		九十	七十	八十
		九十	一百	

五	徒刑五	一年杖六十	一年半杖七十	二年杖八十
	流刑三	二千里杖一百	三年杖一百	
	死刑二	三千里杖一百	二千五百里杖一百	

絞全其肢體  
斬身首異處

○續文獻通考ニ云死刑最重曰凌遲徒流之重曰遷

徙曰充軍ト云々又明ノ時贖ノ法唐トコトナリ在京在

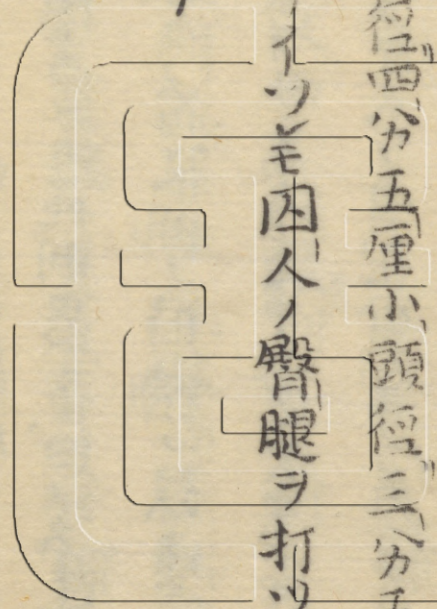
外ニテ其差オナレカラス事ニゲレハアゲオソノ内無カ有力

稍有カトステテ人ノ身上貧富ノ差ニヨリテ輕重ノ別アリ

○又答杖ノ法答一トスハ小荆ヲ以テコレヲ作ル大頭徑一

分七厘小頭徑一分七厘杖トイフハ大荆杖ヲ以テ作ル

大頭徑三、カニ、厘イヅレモ節、目ヲ削リサリ長サニ、尺五寸ナリ又訊杖アリ長ハ栲問ス時ニ用ユ荊杖ヲ以テ作り大頭徑四分五厘小頭徑三分五厘長モ長サ三尺五寸ナリイヅレモ囚人ノ臀腿ヲ打ツ笞杖トモ小頭ニテ打ツナリ



▲十惡並ニ 本朝ハ重ノ事

○周禮ニ五刑九伐ノ名アリテ不孝不睦造言亂民ノ刑アリ内外亂鳥獸行則伐等ノ法サズクニテ惡逆ヲ誅シ不道ヲコロスハ古ヘヨリレカリソノチ漢ヨリコノカタソノ法大畧相ヨレリ北齊ノ昭成帝河清年中ニ律ヲ定メコノ時ニ重「非十條ヲ列セリ一ニ反逆ニニ大逆ニニ叛四ニ降五ニ惡逆六ニ不道七ニ不敬八ニ不孝九ニ不義十ニ亂ヲ十條ヲイカスモノハハ議論贖ノ限ニアラズコレヨリ以後唐宋明ニイタルニテ必コレヲ律ノハジニアラハス北周ニ至リテ

十惡ノ目ヲ立テズシテ惡逆大不敬不道不孝不義内

亂ノ罪ヲ重ス隋ノ文帝ノ時又十惡ノ條ヲ置ケリ齊

ノ制トヤコトナリ唐全ク隋ニヨル故ニ丘瓊山之十惡之

名非古也起於齊而著於隋唐因之ト

一曰謀反謂謀危社稷

二曰謀大逆謂謀毀宗廟山陵及宮闕

唐 三曰謀叛謂謀背國從偽

四曰惡逆謂毆及謀殺祖父母父母殺伯叔

父母姑兄姊外祖父母夫夫之祖父母父

母者

五曰不道謂殺一家非死罪三人及支解人

造畜蠱毒厭魅

六曰大不敬謂盜大祀神御之物乘輿服御

物盜及備造御宝合和御藥誤不如本方

及封題誤若造御膳誤犯食禁御車舟舩

不牢固指斥乘輿情理切害及對捍制使

而無人臣之禮

七曰不孝謂告言詛詈祖父母父母及祖父

刑律通考卷之三

惡

圖

母父母在別籍異財若供養有闕居父母  
 喪身自嫁娶若作樂釋服從吉聞祖父母  
 父母喪匿不舉哀詐稱祖父母父母死  
 八曰不睦謂謀殺及賣總麻以上親毆告夫  
 及大功以上尊長小功尊屬  
 九曰不義謂殺本屬府主刺史縣令見受業  
 師吏卒殺本部五品以上官長及聞夫喪  
 不舉哀若作樂釋服從吉及改嫁  
 十曰內亂謂姦小功以上親父祖妾及與和者

本朝之制置八虐之刑

本

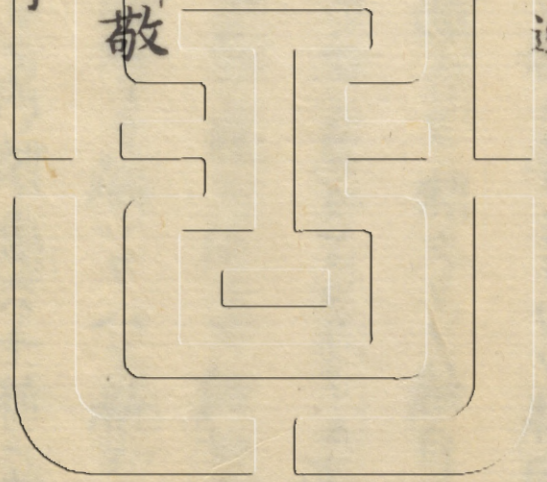
朝

八

虐

圖

- 一曰謀反
- 二曰謀大逆
- 三曰謀叛
- 四曰惡逆
- 五曰不道
- 六曰大不敬
- 七曰不孝
- 八曰不義



刑律通考

卷之三

七

本朝ノ制全ク唐ノ法ニヨル律ヲスル處ノ注、文少ク、異同アリ、アハセ考フヘシクノ内、隋唐六十條ニ立テ、是ヲ十惡ト云、本朝ニコレヲ損益レテ減シテ八條トシ、是ヲ八虐ト云、先王ノ時、漢唐ノ法ヲ取り用ヒテ、時世ニシタガヒ、水、土ニヨリテ斟酌増損シタマフノ意コレニヨリテ、ミルベシクノ内、唐ノ律不睦ノ一條、本朝コレヲ除クツノ條目ハ不道ノ中ニアセリ、又唐律内亂ノ條モノゾキテ、ソノ條目ヲ畧シテ不孝ノ中ニコレヲイルツノ異同オノツカラミルヘシ

▲ハ議並ニ 本朝六議ノ事

○ハ議ノコト、本周禮ヨリ出ツ、是ヲ八辟ト云、或ハ天子ニ親アル人或ハ爵アルモノ、或ハ賢才ナルモノ、或ハ功アルモノ、罪アル時ハ常ノ人ニハ定リタル刑罰ニ逢フヘキヲセザレテ宥免セラルコトナリ

○周禮小司寇以ハ八辟、辨邦法、附刑罰、一曰議親之辟、二曰議故之辟、三曰議賢之辟、四曰議能之辟、五曰議功之辟、六曰議貴之辟、七曰議勤之辟、八曰議賔之辟、ト右八辟ノワケカタノゴトシ、辟ト注キ法ナリト解ス、八條ノ法ト云コトナリ、ソノ内議賔ト云コトハ注ニ云、謂、所不臣者、三恪

二代之後典ト

唐律八議圖

- 一曰議親 謂皇帝祖免以上親及太皇太后皇太后總麻以上親皇后小功以上親
- 二曰議故 謂故舊
- 三曰議賢 謂有大德行
- 四曰議能 謂有大才業
- 五曰議功 謂有大功勳
- 六曰議貴 謂職事官三品以上散官二品以上
- 七曰議勤 謂有大勤勞
- 八曰議貧 謂承先代之後為國賓者

職事官散官トイフハ唐令ニ有執掌者為職事官無執掌者為散官ト云々又國賓トイフハ唐ノ時テリテハ北周ノ子孫介公隋ノ子孫鄭公ヲ姬周ノ三恪ニ準シテ國賓トスルナリ

本朝之制置六議

- 本朝
- 一曰議親 謂皇親及皇帝五等以上親及太皇太后皇太后四等以上親皇后三等以上親
- 二曰議故 謂故舊
- 三曰議賢 謂有大德行
- 四曰議能 謂有大才業
- 六朝
- 六議

圖

五曰議功謂有大功勳  
六曰議貴謂三位以上

本朝ノ制全ク唐ノ制ヨリテフノ内ニ勤實ノニケ條ヲケ  
リテ是ヲ六議トシテ議勤ノ一條ハ議功ノ條ト相通スルニ  
是ヲ割ラレト見タリ又議貴ノ一條ハ本朝イニシヨリ一姓  
ニレテ前代勝國ノ子孫ナキニ又是ヲ除カル予向ニ令フ讀  
六議ノ事アリテフノ事ヲ詳ニセズ本朝律並ニ法曹至要鈔ヲ  
三ニ具サニテ目ヲアラハセリ先王周室唐家ノ法ヲ斟酌シテ  
之精意ヲカニ遺文ニヨリテフノ事ヲシテ貴フベキナラスヤ

▲議請減贖官當除免ノ事

○律令ニ議請減贖官當除免ト云コトアリコノ事唐律ニ  
詳ナリ律ノ第二卷名例ノ中ニ議ノ章請ノ命減ノ章贖ノ  
章ト云段アリ議ト云ハ八議ノ人死罪ヲ犯ストキハ其罪狀  
並ニ應<sup>キ</sup>議ノワケヲ條録シテ是ヲ奏聞シ都座ニテ集議  
議定リクニ上奏裁シテ上ノ御セバキヲ待ツ是ヲ議ト云律  
ノ注ニ云議者原情議罪稱定刑之律而不正決之豈  
ナリ請トハ太子ノ妃ノ大功以上ノ親又ハ八議ノ人ノ期以上  
ノ親モシクハ五品以上死罪ヲ犯シタルモノハカクノゴトクニ決

断スベキヨレテ上請ス是ヲ請ト云注ニ云請謂條其所犯及  
 應請之狀正其刑名別奏請ト是ナリコノニツトモ流罪  
 「等ヲ減スルカ又ハ所惡ヲ犯スモノハ議請ニオヨズ減ト云請  
 フコトヲ得ルモノ、親類流罪以下ハ各一等ヲ減スルノ例ニ從テ  
 是ヲ減ト云贖ト云凡議請減スベキモノ、親類流罪以下ハ  
 財ヲアゲテ罪ヲアガナフコトヲ聽ス是ヲ贖ト云コノニツハ上へ申  
 上ルコトハナキト見ヘタリ是ヲアハセテ議請減贖ト云唐律ニツ  
 一ヒラカナリ文レゲレハ具サニアゲスコノ次ニ官當除免又免所  
 居官ト云コトアリ

○官當ノコトハ杜氏通典ヲ考フレニ陳ノ武帝ノ時ヨリ  
 ハレニト見ヘタリ通典ニ云五歲刑若有官准當二年  
 餘並居作其三歲刑若有官准當二年餘一年贖  
 ト陳ノ下ニ見テアラハセリ此ハ無官ノモノ罪ヲ犯レテ五歲  
 ノ刑ニ逢ヘハ法ノ通りサダシテ五年ノ役ヲツトムナリモシ官位  
 アルモノノ刑ニ逢フコトアレハ官ヲ取アゲテ二年、カノ代リトシ  
 ノコリ三年ハ法ノ科トクニト云ナリ何レモ居作ニテ後世ノ徒  
 罪ナリ隋ノ時及ナシ是モ官當ト云通典隋ノ下ニ云犯法科  
 罪以官當徒者五品以上官當徒二年九品以上官當



徒一年當流者三流同皆比徒三年云々是ナリ官位アルモ  
ノ官ヲ解テ流罪徒罪代リニスコトヲ當ト云是ニテニルベシ

○唐律ニ云諸犯私罪以官當徒者五品以上一官當  
徒二年九品以上一官當徒一年若犯公罪者各  
加一年當以官當流者三流同比徒四年其有二  
官先以高者當次以勳官當行守者各以本品當  
仍各解見任若有餘罪及更犯者聽以歷任之官  
當其流內官而任流外職犯罪以流內官當及贖  
徒一年者各解流外任ト唐ノ世官當ノ法カクゴトシ私

罪ト私ニ自ラ犯シ法ヲ枉ゲイツル等ノ罪ライフ公罪トハ情ニ私  
曲ナケレドモ法式ニ違フライフ又ハ公坐トモ云ニ官トハ職事官散  
官衛官ヲ同ク「官トス勳官ヲ又「官トスリナリ

○除名畧シテ又除トモ云除拜除目ノ除トコトナリ全ク官位ヲ取  
アゲテ庶人トスルコトナリ唐律ニ云除名者官爵悉除課役從  
本色ト是ナリ

○免官又免トモ云律ノ注ニ云謂ニ官並免ト免所居官ハ律ノ  
注ニ云謂免所居之一官トコトナケ疏議ニ云ハシクコレヲアラハシ  
クノ内免所居官トイフ免官ト云ヨリカシ大抵官ヲ取アゲテノ

コリタル官ヲ帶タルモノナリ

右ノ内議請減贖ノコトハイニヒヨリ是アリトイヘトモ是ラ次  
第ニテ條目ヲ立レコトハ隋ノ時ハビシリテ唐コレニシタカフ又  
獻通考云隋有議請減贖當免之法唐因之トフノ  
後年數ヲ經テ罪ヲユサシテ官位任スルコト又差アリ唐律ノ  
文ヲ下ニ舉ク

○唐律云諸除名者官爵悉除課役從本色六載之後聽叙  
後聽叙依出身法○免官者三載之後降先品二  
等叙免所居官及官當者期年之後降先品一等叙

本朝之制凡斷罪有議有請有減有贖其有官者  
有官當有免官有免所居官有除名

コノ法全ク唐ノ制ニヨリ議トスル議ノコトナリ請トスル上  
へ奏請シテ天裁ヲウカフコトナリ減トスル罪ヲ減スルコト

本朝名例律ニ云稱減者就輕死ト是ナリ贖トスル議  
請減スベキモノ親類流以下ノ罪ヲオカストキソノ科代ニ銅

ライダスライフ刑部式ニ云絞斬ニ死贖銅各二百斤ト具キ  
リ又銅ナキトキ錢ヲ取テ式ニ又云贖罪無銅准贖徵錢

ト是ヲアハセテ議請減贖ト云今ノ内處ニシテコトアリソノ委

細ノケ本朝律ニラスコト唐律ト同シ

○官當ノコト唐ト同シ官人徒罪ヲオカレタルハ其カワリニ官ヲ  
 取アケルコトナリ律文以下ニアケ 本朝名例律云犯私罪以  
 官當徒者一品以下三位以上一官當徒三年五位以上  
 以一官當徒二年六位以下以一官當徒一年若犯公罪者  
 各加一年當其有二官謂官位為一官勳位為一官行守  
 者各以考本位當仍各解見任若有餘罪及更犯者  
 聽以歷任之官當

右ノケ唐ノ律文ト全クコトナラス又除名免官等ノコト且モ

唐トコトナラス是又文レケレハレサズ至要鈔ノ文手短カニキコ

ユニヨリト長ク左ニシル

○法曹至要鈔云犯重科之身有職位之時隨罪法

之所指辭退其職位者也即其辭退之差有四

一者官當

二者免所居官

三者免官

四者除名

注典名例律同

先解退所居之一官

先解退所居官位勳位

官位勳位悉除課役從本色

○續日本後紀卷十六 承和十三年參議左大臣辨正躬王等

贖銅ノ下ニ仍准所犯以所帶一官當徒二年其餘如半  
年徒贖銅如半ト云々官當除免ノコト是ニテアキラカカリソ  
ノ上ニテ除名ノ人ハ官職位階勲トモ取アゲラシテ庶人トナル六  
年ノ後ニ及テ官位ニ叙セラル免官ノモノハ三年ノ後先位ニ  
等ヲ降シテ叙セ之免所居官並ニ官當ノモノハ二年マギテ先  
位一等ヲ降シテ叙セララソフ詳ナルコト又唐トオナシ

○五代宋朝刑名ノコト全ク唐律ヲ用ユ少ク沿革アルベシ  
モ肇ルニ及ハズ明ニ至リテ官當ノ事見アタラズ

▲大赦常赦曲赦ノ事

○赦トイヒミヘヨコレアリ書經舜典ニ云青<sup>ハ</sup>火<sup>ハ</sup>肆赦トコレ赦  
ヨリテオユトコナリ青過也ト訓シテ人ノアヤチナリ災害也  
ト訓シテ人ノフシアセシテ罪スルコトナリコノニツハ刑ニアフベキコ  
トアレハコレヲ云ヒテ宥免ス又周禮司刺ノ職ニ宥三赦ノ法  
アリニ宥トハ一ニ不識ニ過失ニ遺忘シイフニ赦トハ一ニ幼  
弱ニ老耄ニ三意愚シイフニ等人ノ罪アリトイヘトモユル  
ナダムナリ又周書呂刑ノ篇ニ五刑之疑有赦五罰之疑有  
赦トイヘリ是ハ何トナレニ刑罰ノサバキカタキコトヲ宥免シテカロ

ク行ハルコトキリイッモ刑罰ノ定リタ上ニテノ憐愍ナリ

三	不識
宥	過失
圖	遺忘

三	幼弱
赦	老耄
圖	蠢愚

○秦漢ヨリマカタイニ赦トイフコトハ罪ノ輕重情ノ淺深ニカハズ

一「同ニ赦宥スルヲ云馬端臨オモラク管仲カ言ニ赦者小利而

大害者也ト又楚人陶朱公カ長男ニ告テ曰王且赦トイフニヨ

リテニハ春秋戰國ノ時カヨリスデニ大赦ノ法アリトイヘリ然レド

モ春秋ノ本ニ又ニモ又肆大宥トイフコトアリムカレヨリアルコト見ヘリ

○秦漢ノカタ世々ニ國家ノ大事即位改元立皇后立太子帝崩

元服封禪郊祀等ノ時節並ニ日食地震火災靈異之甘

露降ル等ノ祥瑞必異又ハ征伐事ナル時ナド大赦行ハルコト

ナリ然レトモ定リタル例モニハズ又ハ何ノユヘトイフコトモニハズニテ赦ヲ

ルコトモアリ

○北齊ノ時ニ大赦ノ日ハ武庫令金ニテ作りタル雞並ニ鼓ヲ闐闐

門ノ右ニ設ケテ囚徒ヲ闐ノ前ニツノ鼓ヲウツコト千聲枷鎖ヲ公

ニテコシユスオオ男詩ヲ念何日金雞下夜郎トイフコト事ナリ

○大赦ノ外ニ曲赦トイフコトアリ是ハ天下「同ニ赦セラルニテラス州

一郡ノ内或ハ一方ヲ赦セズナリツノ事ニ國ノ時分ヨリアレトモ名

目ハ晉武帝泰始五年典赦交趾九真日南五歲刑トイフ

ヨリハシニ通考ニ見ハル長ヨリ世々ニ事アリテ唐宋ニイタリ

テモソノ通りナリ通考ニ宋ノ制ヲ論シテ曰其恩霈之及有止

於京城西京西路一州之地者則謂之曲赦長

○スヘテ赦ニ三等アリ大赦常赦曲赦ナリ唐ノ時改元等ノ詔

書ノ文ニ強竊ニ盜私鑄錢外常赦不原者皆大赦ス

アリシカハ大赦トイフ常赦ニヨサル罪人ヲモユルサレト見ヘ名

シカレドモ強竊ニ盜ナドノ大罪ハ大赦ニモユルサレ事ナリ又赦

文ハハヤク處々ヘ到著スルヤウニセラル故ニ赦書日行三百里

トイヘリ恩惠ハヤクオヨブヤウニトノ事ナリ

本朝之制凡赦有大赦有常赦有曲赦

本朝大赦ノト古ハ見アタラズ 孝徳天皇大化二年

新宮ヲ造ルニ因テ天下ニ大赦スルト日本紀ニ見ル詔曰宜

遣使者諸國流人及獄中囚一皆放捨ト大赦ノト始

コレニアラハルコヨリ後赦ノト處々ニ見ル

○文武天皇ノ大寶四年五月ニ西樺ノ上ニ慶雲アラハルコレニ

因テスヲ改メテ慶雲元年ト云詔シテ天下ニ大赦同四年元

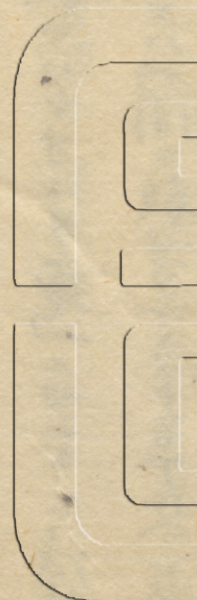
明天皇即位於太極殿トキ天下ニ大赦スルノ詔ニ曰自慶  
 雲四年七月十七日昧爽以前大辟罪以下罪無輕重已  
 發覺未發覺咸赦之上ニ云コト也後即位改元ノ詔書必  
 フノ文アリコノ外曲赦ノコト國史所タニアリ文レゲレハアゲズ

○五代以來宋元明ニ至ルニテ赦ノコトカハコトニヘズ又コレヲ德音  
 ト云イヅレモ通考ニ詳ナリ

赦ノコト古ヘ書經周禮等ニラスハ一人一人ノ上ニテ罪ノ疑  
 ハシクアハルムヘキヲナダヌルニテ一國天下ノ罪囚ヲ一同ニ  
 スコトナシ秦漢コノカタ世々ニ赦令行ハレテ罪アルモノヲ一同ニ

カヌルニ後世ニナリテモ故事トナリテアラタン得ズレカレトモ管  
 仲コノカタ後漢ノ吳漢王符蜀ノ孔明孟光宋ノ胡致堂  
 馬端臨等イヅレモ赦ノコトヲ世コトイヘリ是ハ大亂ノ後  
 ナド寇賊アミシオコリ逐ニセシギシ法禁モナシガタキヤウ  
 ナル時分ハ一同ニ赦セラルコトモアルヘシ治平ノ世ニ罪人ヲ一  
 同ニユスコトハカツテ善人ノ害ヲナシ或ハアラカジン赦ラア  
 テニシテ惡ヲナスモノ出来テ國家ノ害ヲナスコトナリ吳  
 漢カ光武ニスンテ勿赦ト云王符カ述赦篇ニ赦贖數  
 則惡人昌而善人傷矣ト云大司農孟光カ費禕ヲ責

テ敵者偏枯之物ト云イツレモコノワケナリリノ事通鑑  
通考等ノ書ニ具サレラハル偏枯之物トイフハ惡人  
福ヲ得テ善人ナヤ三類ニ思ノカタイキナルゴトヲイヘリシ  
トハ中風ヲヤムモノ、氣血カナハザルガコトシ



▲私度越度冒度ノ事

○私越 冒度トモニ何レモ開ヤブリノ事ナリ私度ト云ハ過所  
ナレニワタシニ開所ヲ通ルコトイフ唐律疏議ニ云私度者  
謂無過所從開門越度トハ開所ヲ通ラズレテワキ路ヘ  
ヌケテ通ルコトイフ疏議ニ云越度者謂開不由門津不由  
濟而度者ト唐律ノ注ニ云不由門為越ト同キコトナリ  
冒度ト云ハ他人ノ名ヲカリテ其キツ手ヲオカシテ通ルコト  
疏議ニ云冒他人名請過所而度者ト是ナリ

○唐律云諸私度開者徒一年越度者加一等  
門不由



越 ○若冒名請過所而度者各徒一年○即將馬

越度冒度及私度者各減人二、等餘畜又減二、等

本朝之制凡度開禁私度越度冒度

○法曹至要鈔載<sub>ニ</sub>衛禁律云私度開者徒一年註

云謂三開者攝津長門減一、等餘開及又減二、等

越度者各加一、等○又云不應度開而給過所若

冒名請過所而度者各徒一年

本朝度開三、等、法全ク唐ノ律ニヨル法曹至要鈔

ニハタ、私度越度ヲ出シテ冒度ヲ舉ゲズ律文ヲ按

スルニ冒度ノコトモコノ中ニ見ヘタリ且今ノヒト人ノレゾコナヒ

ヲ越度トイフハ律ノコトハヨリ轉ニアヤマルナルヘシ

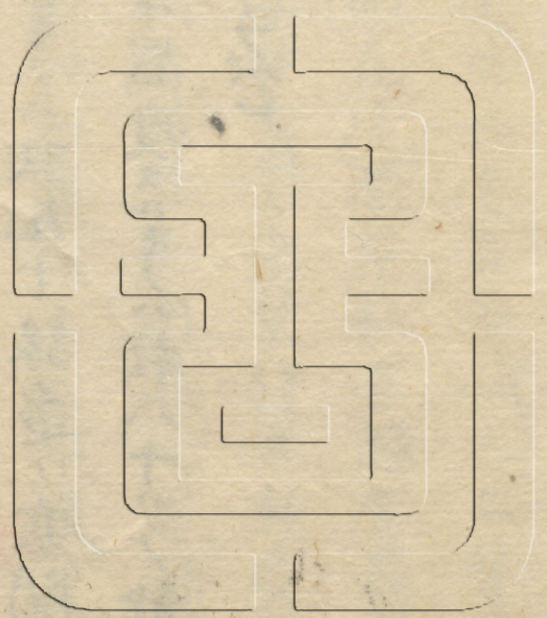
○明朝度開ノ法唐律ト大槩相同シ私度スルモノハ杖八

十越度スルモノハ杖九十緣邊ノ塞開ヲ越度スルモノハ杖

百徒三年冒度スルモノハ杖八十ツノ餘大明律ニ詳ナリ

本書ヲ考フベシ





▲保辜限ノ事

○保辜限トイフコトハ唐律並ニ大明會典等ノ内處マニ  
 見ル是ハ人ヲアヤンタルモノヲアツカル日ギリノコトナリタト  
 ヘハ人ヲアヤンタルモノ即座ニ打コロストキハ殺入者死スル  
 ノ法モトヨリ疑ヒナシ或ハ即座ニ死セザレドモ十日廿日ヲ  
 過テ死スルハ手ヲ負ハセムモノヲ死罪ニスツノ日数十日ヨ  
 ノ十五日ニテ四段アリキズノ重キホド辜限久シキナリ  
 又日ギリノ内ニテモ他ノコトニテ死スルモノハ手ヲ負ハセタルバカ  
 リニテ人ヲ殺スノ罪ニ處シガタキナリ是ニヨリテ保辜限ノ

法了保トイフ不請合フコトナリ唐律ノ文ヲ下ニク

○唐律鬪訟律曰諸保辜者手足毆傷者二十日以刃及湯火傷人者三十日折跌支體及破骨者五十日又曰限内死者各依殺人論其在限外及雖在限内以他故死者各依本毆傷法注云他故謂別增餘患而死者

本朝之制保辜限

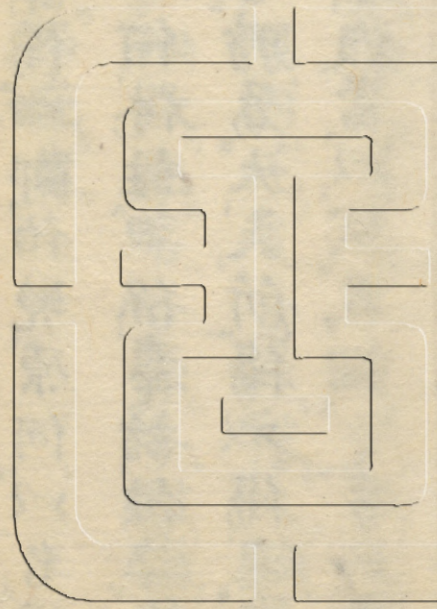
本朝律鬪訟律ノ處ハ逸シテ存セズ故ニ考フヘキヨトシ然レトモ本朝律ハ全ク唐ノ制ヲ用ヒラル保辜限ノコトモ亦唐ノ制ト同キナルベシ

○明律保辜限ノ事ハ唐ト同シ別義ナシ故ニ之ヲノズ

○春秋襄公七年鄭伯髡原如會未見諸侯丙戌卒于操公羊傳曰鄭伯髡原何以名傷而反未至乎舍而卒也何休註曰保辜諸侯卒名故於如會名之明如會時為大夫所傷以傷辜死也君親無將見辜者辜内當以弒君論之辜外當以傷君論之

解曰漢律有其事然則知古者保辜者亦依漢律律文多依古事故知然也トシカレハ保辜ノコト古ヘヨリコ

レアリテ漢ノ律ニ之ヲ用ヒテ唐明ニモ之ヲ遵用セラルト見  
ヘタリコノ事他書ニ見ヘズ故ニ公羊ノ文ヲ詳ニラス



▲才技長上ノ事

○才技長上ハ才能技藝アルモノ官職役義ヲ非由ナシ  
ニツトムルコトナリ長ト云ハトコシテヘト訓シテ常住ノコトナリ上  
ト云ハ番ニアガトナリ直ノ字ト同意ナリ故ニ番旧ヲ直日  
上日ト云シカレハ長上ト云ハ非番ナレニ常ニツトムルコトナリ  
ハユルヒラツメト云ガゴトシ

○通鑑晉安帝紀ニ云長上段速骨宋赤眉等因衆心  
之憚征役遂作亂ト胡三省ノ注ニ云凡衛兵皆更番  
迭上長上者不番代也唐官制懷化執戟長上婦

德執戟長上皆武散階九品長上之官尚矣又方  
密之通雅云長上長直不番上也又云長上不獨  
將士之名也下宋之咸平中侍讀更直侍講長上ノ事  
ヲヒラカレ長上ノコトムカニヨリコアリテ唐ノ世亦コレヲ以テ稱  
トスルナリ

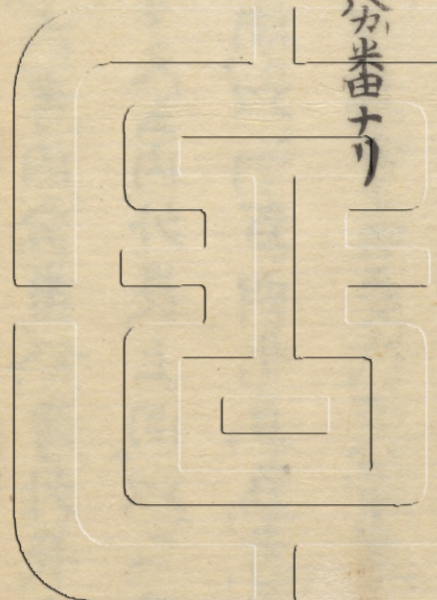
本朝之制有長上考有ハカ番考

本朝ノムカニ百官考選ノ限スヘテ四科アリ内長上内分  
番外長上外散位ノ四ツナリ内外トモ長上ハ二百四十日  
シ一考トス内外分番百四十日ヲ一考トス考數ト上中  
下ニヨリテ位階ヲススルナリ今ノ文ヲ下ニアケ

○選叙令曰凡初位以上長上官遷代皆以六考為  
限義解云謂一品以下也又云凡考選限都有四  
科内長上六考内分番八考外長上十考外散位  
十ニ考云々又云内外長上同以二百四十日為考  
内外分番同以二百四十日為考云々長上ハ分番一  
對ニテ常詔ヲ長上ト云交代ヲ分番一云各内外アリテ考  
ノ數ニ因テ選ニテ位階ヲススルナリ事今ニ詳ナリコニ之ヲ畧ス

○延喜式式部下ニ長上考番上考ノコトアリ諸司議内

番上考選文進省トアリ又云長上選番上選亦各有  
人數ト長上ヲ番上ニ對シテイフトキハ長上ハ常詰ト番  
上ハ即上ノ分番ナリ



▲土功並ニ長功中功短功ノ事

○イニハ國ニ城郭ヲ修覆シ溝川ヲサスナドスル土功ヲオ

コスコトハ必十月ヨリ是ラハ春夏秋ノ三時ハ耕作

隙ナキ時分ナルニヨリテ冬ニナリ農隙ニ是ラハハムナリ春

秋左氏傳杜公二十九年ニ云凡土功龍見而畢務戒

事也ト今ヲ九月龍星見ホシテ土功ヲハジムルヲイフ杜預注

云三務始畢戒民以土功事ト又詩經邶風ニ定之方中

作于楚宮ト夏正十月定ト云星ノ南ニ中スル時分ヨリ土

功ヲ始ムルコトヲ賦セリニノ星ノアラハルヨリ宮室ヲ作ルニ因テ

營室星ト云二十八宿ノ室星ナリイツレモ三代ノ法ニテ秦漢コノウタハ時節ニ拘ルトミヘズ

○唐ノ時功作ノコトト年中ノ日ノ長短ニヨリテ是ヲ三段ニワカス唐書百官志云凡工匠四月至七月為長功二月三月八月九月為中功十月至正月為短功雀者日為絹三尺トアリ

唐功作三

長功 四月至七月

中功 二月三月八月九月

短功 十月至正月

等圖

本朝之制 凡計功程有長功中功短功

本朝功程ノ制亦唐ニヨリ四五月ノ四ヶ月日ナガキ時分ヲ長功ト云布一常ニテ四功ヲ得七常トハ一丈三尺ナリシカレハ一人前ニ三尺ニ寸五分ナリ二三八九ノ四ヶ月ヲ中功ト云一常ニテ五功ヲ得一人前ニ三尺六寸ナリ十十一十二正月ヲ短功ト云一常ニテ六功ヲ得一人前ニ三尺六分尺ノ一ナリツノコトハ營繕令マテラハル

卷十三

本朝功程圖

長功

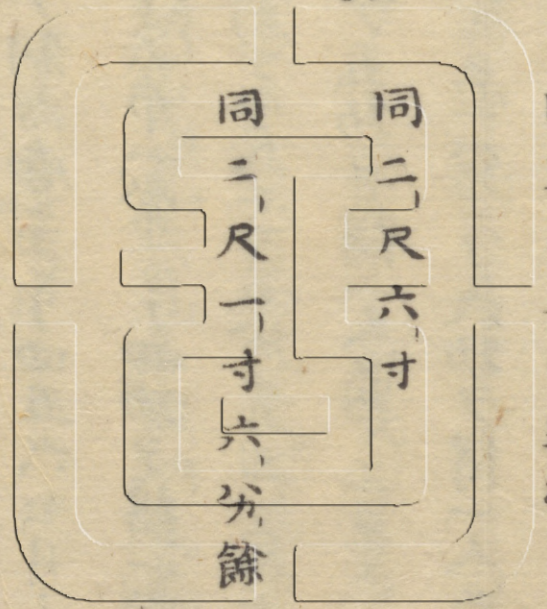
同三尺二寸五分

中功

同二尺六寸

短功

同二尺一寸六分餘



制度通卷十三畢

寬政丙辰歲六月十九日善能書畢

制度通跋

大抵經世之書，唐杜氏有通典，宋馬氏有文獻通考，逮明世章氏著圖書編，丘氏著衍義補，是皆講索研究歷代之制，度沿革得失，詳明繁簡，備矣。然于書浩博，非旦夕之可諳得。彼失此，讀者多不得津要，加之本朝之於中國，壤不相接，風不相同。然其所因襲，全在唐制。

制度通

及

一



則經生亦不可不講求也吾先子有  
 概乎是四十五之間以國字草一書  
 名曰制度通詳中兼古今之源委施及  
 本朝之古制次而至宋元明雖本通典  
 通考等然博覽群籍事有明據者旁通  
 考索體制簡當及便於誥博之典草既  
 成矣又讀書涉獵之次隨得隨改故其  
 傳寫者條款多少亦不復一樣及晚年

從學之士日多時新寫訂正事繁業忙  
 盖有不暇精校者矣傳播日夥誤訛乖  
 措不勝其多殆至有錯其義者傳寫編  
 海內誤落滿全書善韶自夙年欲校而  
 刊之天明丁未之歲始業遭戊申之災  
 荏苒數年不果癸丑之春再始業就原  
 稿一一照對又別有草者或片紙斷簡  
 屬其稿者櫛比讎對補訂去就一從先

意體統繁然遂成全書甲寅之夏四月  
校畢手自繕寫與同志謀以授剞劂今  
茲刻成畧償素志凡四方考此書者就  
此刻為定本其校訂之掛漏大方之是  
正為幸矣

寬政八年丙辰冬十一月伊藤善韶謹撰

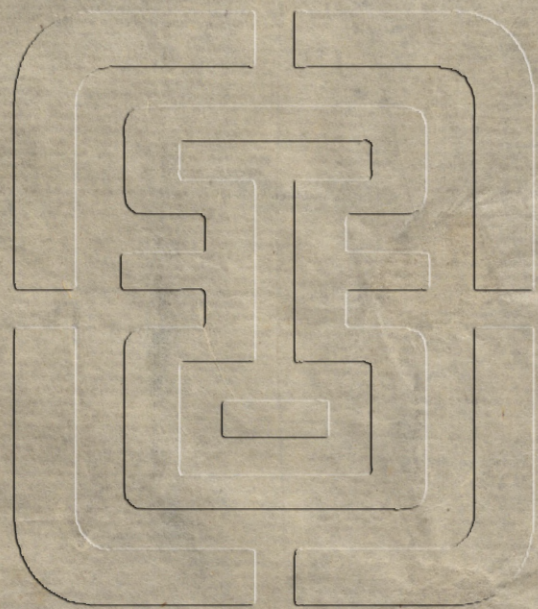


每部有圖章記號

無是者皆屬贗本

寬政丁巳春全刻

施政堂藏版



林書

京都

石田忠兵衛

林

芳兵衛

